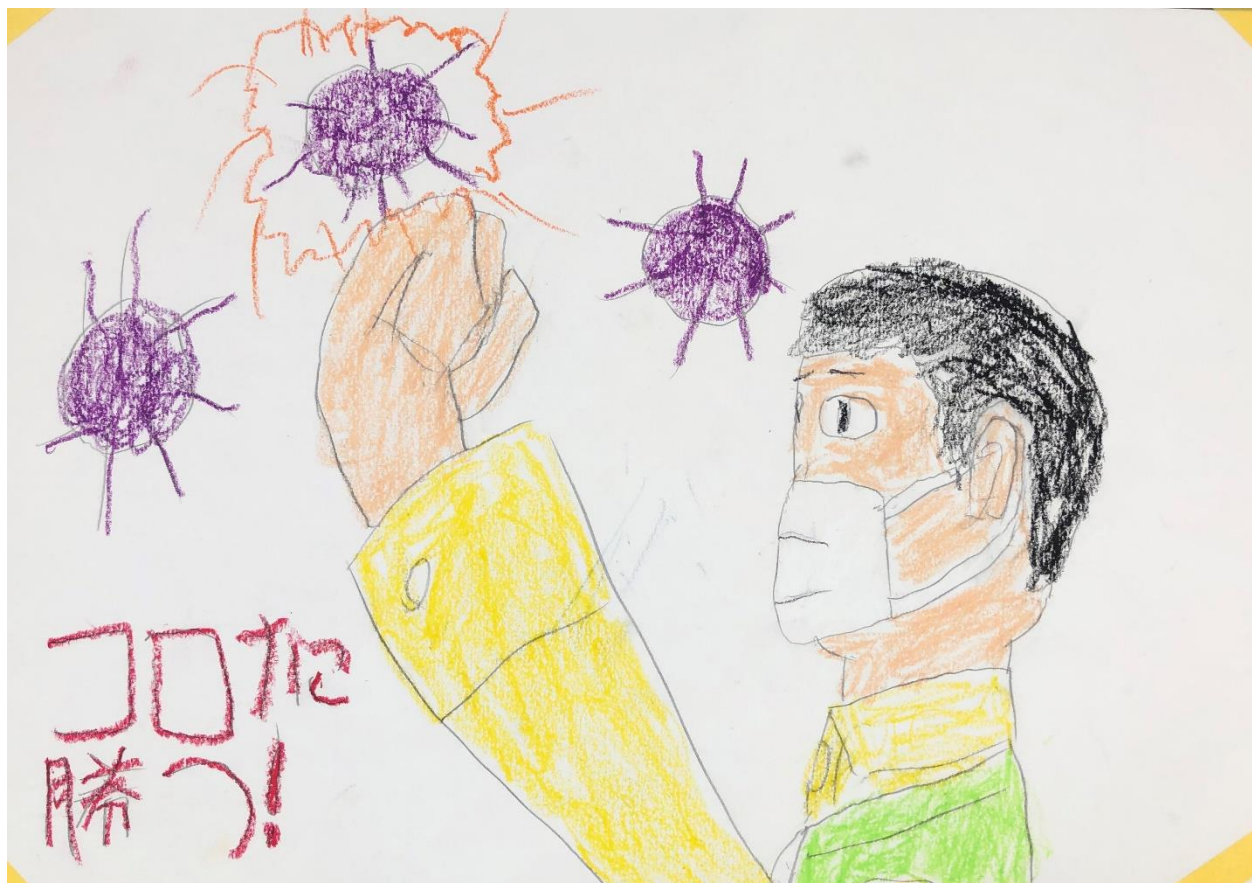


社会福祉法人けやき福祉会

平成31（2019）年度事業報告



1. 法人全般

(1) 特記事項

①個別支援計画の充実

平成31（2019）年度は全ての事業所が「個別支援計画の充実」をテーマに事業を展開してきました。

国の施策の中には「障がい者が地域で暮らせる社会」「自立と共生の社会」を実現するとありますが、その目標に向かっての支援ができつつあります。

ご両親が他界された利用者さんが、「遊びに名古屋まで出かけたかった！」というニーズから、他の事業所と連携することで、働いて稼ぐ支援を受けることができるようになりました。

また今般のコロナウイルス感染を避けるため、ホームのスタッフと連携しながら、「移動支援」や「れすぽ24」のサービスを用いつつ、名古屋に出かけずとも楽しく外出する提案を行うなど、地域で暮らしていくためのきめ細かな支援を作りながら生活し始めています。

他方、身寄りのない方の365日支援体制についても、他事業所との連携を取りながら余暇支援体制を整え、市民後見人との契約も吟味しつつ、本人主体の支援ネットワークができつつあり、個別支援計画を充実させることが、地域で受け入れられる社会を構築していくことに一層つながっていくと考えます。

②職員の確保と特定処遇改善加算の申請

スタッフの人材確保については、これまでのチラシの折り込みや求人誌への掲載だけではなく、インターネットを介しての人材募集に力を入れてきました。多くの方々が求人を見てくれているところまではきていたのですが、残念ながら採用につながりませんでした。

また変形労働制の採用により、スタッフの働きやすい環境の整備を行いました。

最後に令和1年10月に創設されました特定処遇改善加算の届出を行い、賃金改善につなげることができました。これらの改善によって、昇給や評価を含む賃金制度になりスタッフの定着につながっていったらと考えております。

③「輪来工房」の社会福祉施設等施設整備補助金の落選

この問題は今年度最大の出来事でした。

地元との粘り強い話し合いによって、ようやく農振除外及び農地転用に必要な「排水同意」をいただくことができました。

これに伴い、農振除外手続や農地転用手続と並行して、社会福祉施設等施設整備補助金の申請を行いました。愛知県のヒヤリング段階で残念ながら落選となりました。

この要因は、春日井市の中において強い要請（意見書）がなされなかったことだと考えられ、引き続き次年度の補助金に手を挙げることを春日井市に伝えましたが、残念ながら新型コロナウイルスの感染対策に追われ、年度内には協議の場を設けることができませんでした。

④高齢化に伴う新事業の立ち上げと10か年事業計画の進捗

新型コロナウイルスの感染対策に追われ、十分な議論を行うことができませんでした。

引き続き、検討を行います。

⑤けやきの家空調設備入替工事

施設創設当時から使用してきたガスによる空調設備が耐用年数を超えており、メンテナンス業者より、次故障した場合は部品がなく修理ができないとの報告が入っていました。

そのため、設備の入替にあたり保守点検の費用を考慮した結果、今回経費の少ない電気での空調の採用を決定し、指名競争入札を行いました。

なおエアコンの使用時期を考慮し、当該工事は令和2年5月頃に実施する予定です。

⑥れすぱ～さくら館の開設

平成31(2019)年4月1日付で放課後等デイサービスとしての開所を目指し計画を進めてまいりましたが、必須の職員配置を満たすことができませんでした。

しかしながら、学校終業後の活動の場が欲しいというニーズに応えるため、まずは日中一時支援事業所として出発致しました。

同年11月に職員要件を満たしたことにより、何度も愛知県障害福祉課との協議を重ね、晴れて令和2年2月1日より放課後等デイサービスとして改めて出発いたしました。

(2) 助成・寄付関係

①助成に関する特記事項

「れすぱ24」地域公益取組助成事業 ￥100,000 (愛知県社会福祉協議会)

②寄附金に関する事項

受入先	金額 (件数)
法人本部拠点区分	￥ 1,520,000 (6件)
けやきの家拠点区分	￥ 175,000 (3件)
れすぱ24拠点区分	￥ 56,000 (14件)
合計	￥ 1,751,000 (23件)

助成金・寄附金を頂いた個人並びに諸団体に厚く御礼申し上げます。

(3) その他

(ア) 理事会、評議員会等

- ① 理事会：5回開催
- ② 評議員会：3回開催
- ③ 監査：内部監事監査1回(業務監査6月6日 / 会計監査6月7日)

※平成31(2019)年度は、法人・施設とも行政指導監査の実施はありませんでした。

(イ) 各種規程類の改正

- ① 定款改正(放課後等デイサービスの事業開始)
- ② 定款変更(なでしこ土地・建物の基本財産への編入)
- ③ 「給与規程」改正(R1.11.19)
- ④ 「就業規則」改正(R1.11.19)
- ⑤ 各事業所「運営規程」改正(随時)

平成 31（2019）年度評議員会

開催年月日	出席者 定数	決 議 事 項	理事出席者
R1. 6. 26	6名 7名	<ul style="list-style-type: none"> ・平成 30 年度事業報告（案）の審議・承認 ・平成 30 年度会計報告（案）の審議・承認 ・定款の改正について ・役員の変更について 	山縣紀子 大西晃則
R1. 11. 19	4名 7名	<ul style="list-style-type: none"> ・定款の改正 ・給与規程の改正 ・就業規則の改正 	山縣紀子
R2. 3. 30	5名 7名	<ul style="list-style-type: none"> ・平成 31（令和 1）年度最終補正予算（案）について ・令和 2 年度事業計画（案）について ・令和 2 年度当初予算（案）について ・定款の改正について ・運営規程（第 1 けやきホーム）の改正について 	山縣紀子

平成 31（2019）年度理事会

開催年月日	出席者 定数	決 議 事 項	監事出席者
R1. 6. 10	5名 6名	<ul style="list-style-type: none"> ・平成 30 年度事業報告（案）の審議・承認 ・平成 30 年度会計報告（案）の審議・承認 ・定款の改正について ・「けやきの家」空調設備設置工事について ・定時評議員会の招集について 	花井謙造
R1. 6. 26	4名 6名	<ul style="list-style-type: none"> ・新理事長の選任について 	沖高司
R1. 11. 11	4名 6名	<ul style="list-style-type: none"> ・「けやきの家」エアコン入替工事の入札参加業者（案）について ・定款の改正 ・評議員選任・解任委員会への新評議員の提案について ・臨時評議員会の開催について 	沖高司 花井謙造
R2. 1. 20	6名 6名	<ul style="list-style-type: none"> ・「けやきの家」空調設備入替工事の落札業者との契約について ・評議員選任・解任委員の選任について 	沖高司 花井謙造
R2. 3. 16	6名 6名	<ul style="list-style-type: none"> ・平成 31（令和 1）年度最終補正予算（案）について ・令和 2 年度事業計画（案）について ・令和 2 年度当初予算（案）について ・定款の改正について ・評議員選任・解任委員の選任 	沖高司 花井謙造

2019年度 自己評価チェックシート

できていない理由

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11					
回答数	84															
○の数	78	76	72	75	78	77	80	80	54	78	70					
○の率%	92.9	90.5	85.7	89.3	92.9	91.7	95.2	95.2	64.3	92.9	83.3					
問い	①利用者さんへの対応、受け答え、挨拶は丁寧に行うよう日々心がけている	②利用者さんの人格を尊重し、接し方や呼称に配慮している2	③利用者さんの支援にあたり、威圧的な態度をとったり命令口調で話していない	④利用者さんからの質問・相談に解りやすく答えるようにしている	⑤利用者さんからの訴えに対して、無視や否定的な態度はとっていない	⑥提供している支援が、利用者さんに納得してもらえよう努力している	⑦個人情報には守秘義務があり、記録を利用したら必ず元に戻して管理している	⑧職務上知り得た利用者さんの個人情報について、慎重な取り扱いをしている	⑨グループホームの利用者個室に入る際は、必ず許可を得てから入っている	⑩利用者さんの嫌がることを強要したり、嫌悪感を抱かせるような支援は行っていない	⑪けやき福祉会の倫理綱領・行動規範を守っている					
	努力はしています	仲良すぎ？「～ちゃん」となってしまう	呼称は利用者さんの希望で「～ちゃん」等の方もいます	呼称については時々名字、名前以外で呼ぶことも。でも親しみは込めています。	攻撃されるとムツとする	注意するときなど状況によって使うことがある	伝わっていないと感じること多い	質問の相談が良く理解できれば答えています。	攻撃されるとムツとする	納得をひきだすことが難しいこともある	イベント等で写真を撮るのが個人の携帯を使っている	毎回、許可を得て入っているのではなく・・・	前はしなかったので声をかけている	何か嫌悪されるかつかめないうちもある	守っているつもり	全てはできていない。第六条は気にかけているところです
	忙しいときに流してしまったりする場合があります	「ちゃん」で呼ぶこともある	時々、〇〇さんではなく、ちゃん呼びします	利用者さんによっては「、ニックネーム的に呼んでいる	時と場合によってはそうしなければならぬときもある	社会のルールに反する行動をしたときに	努めてはいるが、できていないか不明	努力はしているが、相手にとってわかりやすくできていないか不明	あえて無視するときはある	子ども相手にどこまで理解してもらえたのか反応がよくわからない	扉が開いているため	本人はp茶を飲んでいるので、部屋をノックしている	ノックして掃除をお願いするがよい返事がない	全て理解していない	倫理綱領、行動規範が良くわかっていない	
	長い付き合いの方にはつい普通の会話になってしまう事がある	呼称は「ちゃん、くん」になりがち	親近感が持てる	時々～くん、ちゃんと呼んでしまっている	かまれたり、つねられたりしたときはやはり強く出てしまう		答えているがそれが正なのかは疑問もある	まだ、何の質問かわからないときがある	搬送すると行為がエスカレートするときは相手にしない		意思疎通の難しい方、許可を得ず入室してしまう	利用者さんの部屋、常に扉開けているので声掛けをしませんでした。今後声掛けします。	問いの状況に自分があつてないと感じる	細かいところまで読んでいない		
		時々、〇〇さんという名前を略して子供の名前を呼んでしまいます		どうしても聞かないとき				利用者により答えることができない内容による			グループホームへ入ったことがないので行ってみたい			利用者さんの名前をさん呼び出来ない		

2019年度 自己評価チェックシート

できていない理由

	12	13	14	15	16	17	18	19	20								
回答数	84																
○の数	50	72	76	79	70	54	60	74	68								
○の率%	59.5	85.7	90.5	94	83.3	64.3	71.4	88.1	81								
問い	⑫危険回避のための行動上の制限を行った場合は、必ずその内容を後見人若しくは代理人に報告している	⑬ヒヤリ・ハット案件が生じた場合は、必ず記録し上司に伝えている	⑭特定の利用者さんに対して、ぞんざいな態度・受け答えをしていない	⑮特定の職員に対して、ぞんざいな態度・受け答えをしていない	⑯支援内容について疑問が生じた場合は、積極的にサービス管理者若しくはサービス提供責任者に相談するようにし	⑰倫理綱領や行動規範に違反した支援をしているスタッフがいた場合は、本人に注意するかサービス管理責任者若しくはサービス提供責任者等のスタッフに通報している	⑱精神的ストレスが生じた場合は、休みを申請する環境ができていない	⑲職員としてのふさわしい言動・身だしなみに心がけている	⑳落ち度があった場合は、速やかに謝罪し、改善に努めている								
	した事がない。どういう場面がチェックに該当するの把握していない	このようなことが起こったことがない	同様なケースに遭遇していない	上司の報告はあり、記録は判断してはいる	攻撃されるときはあえて対応しないときもある	攻撃されるときは強い態度で臨む	世話人さんに相談	そういった状況無し	考え方によっては違反というものについては根拠に乏しく注意はできない	自信が気付かないので責任者に通報したことがない	あったとしても通報する勇気がない	未経験の為評価できません	今般新型コロナ感染症でけやき休み出入りのスタッフ多くなりました。出勤時直ぐの手洗いを忘れるスタッフ有り、注意ためらっています。	やることが多い	よほどのことがない限り休まない	髪の毛は伸びているが、努力はしているつもり	改善できる、できないことをこだわる
	そういった状況無し	上司に報告している。上司から後見人もしくは代理人に報告していただいています。	報告後正規職員にお任せしている	生活支援員なので記録せず上司連絡	体調が悪く受け答えが悪くなる時がある	受け答えをしている一人います	該当なし	そのような例は今のところ見当たらない	そのような言動に至った背景が不明であったため	該当している方が今までの注で注意、通達できていない	そのようなスタッフを見たことがない	今までに該当する方にお会いしていません	具多的な理由が言えないこともある	休むと余計に自分の首を絞めることになる	髭剃りができていない		
	そのような場面に立ち会うことがなかった		業務上そういった場面がない		お金の仕事をしている際、何回かこちらの状況を伝えても話しかけられてこられたときはきつめの内容で意見してしまう時がある		積極的とは言えないかも	相談を忘れる場合がある	見て見ぬふりをしたことがある	世話人さんに相談	スタッフに注意する立場ではない	本人に注意はできかねるが、スタッフに通報しているときとしないときがある	明確な違反行為は見つけない	まだ、事案に相当する機会がない	代わりに入れる人がいたら休みたい	言動については常には思っていない	
	問いの状況に自分がない						相談することはできているが、積極的とは言えないかも									一度胸の空いた服を着た時があり、気を付けるようにしている	

2. けやきの家

「始めに」

課長兼管理者の異動と、正規職員の退職が昨年より続いていることで、職員全体のけやき福祉会の対する不安や嫌悪感等が著しくでており、また利用者家族の方々の中にも特に課長兼管理者の異動に対しての疑問等がありそのとりまとめに当初は時間を割きました。異動したばかりでこのような現状に陥っていると引継ぎの際も何も知らされてなかったので、大変苦労した1年になりました。

職員からは、正規職員等特にサビ管・管理者とのコミュニケーション不足が続いていたことにより、「けやきの家」の方針等の理解が進んでなく、「けやき福祉会」の改革についてもまだ何もわかってない状況だったので、パートさんとの聞き取りの場を設け、正規職員とも面談を行い、説明をしていく中で理解を深めていく作業を行いました。

家族の方々については、定期的に行う保護者会にて、前任者の課長兼管理者にも参加していただき、再度説明を両名で行うことをしました。またバスの添乗を管理者も行い保護者会に参加できなかった方々へのあいさつをしていくことで、異動等があった周知等を行いました。

「支援」・「取り組み」のまとめ

「生産活動【旧授産活動】」の取り組みの見直し・生産活動の会計の仕組みの見直し・本人さんにお渡しする支給金の見直しが必要に迫られていました。その中でも長年行っていた「ケーキ作り・ケーキ販売」「元気ショップ」については、スタッフの体制や食品衛生法の改正により、調理等の規定基準がより細くなり、さらに専門的な知識や衛生面ではほぼ一般の食品店と同じようなことをしていかないといけなくなり、たくさんある取り組みの中の1つの業務量ではおさまらなくなりました。そこでまず「ケーキ作り・ケーキ販売の中止」を決めました。それに伴い、「ケーキ」が出せないのであれば、他の商品だけでは収支がとれないので、利用者さんの販売意欲の低下にもつながる可能性が強く、法人化されてから参加してきた「元気ショップ」も本年度から不参加にしました。

その他では、プールの取り組み・買い物といった地域に出ていく支援内容を中止しなくてはならない体制でした。大人数の利用者さんが毎日くる中で、スタッフの入れ替わりや利用者さんの状況・状態の変化の情報共有や、支援内容の目的等にスタッフ間で大きくずれていることが、取り組みの見直しをするきっかけになりました。その改善をするためにまずは個別支援計画の見直しを図りました。しっかり個別における支援内容を精査して、見直しができる内容に整え、そのデータ・書類の管理の見直しも行いました。そこから始め、しっかりスタッフに情報をおろして共有するためにも、ミーティングをしっかりと持ち、連絡ノートへの記載も行い、しっかり後からでも情報が入る体制等を整えました。

利用者さん自身は、スタッフの入れ替わり（特に正規職員の退職が前年度から相次いでいた）状況もあり、春先は季節がらもあつてか特に落ち着かない利用者さんが多かったです。ベテランのパートさんも多くいますが、特に中堅から経験年数が短いパートさんは、しっかりと情報が今まで入っていない現状があり、利用者さんを知る・自分をしてもらうところから再構築してもらうために、スタッフの取り組み配置も見直し、その交代の中で、引き継ぐことで利用者さんを知ってもらうきっかけ作りも行いました。

次第に、利用者さんも落ち着きが見られるようになり、スタッフ間でも利用者さんの状態・状

況を把握しあう場面も増えてきています。ただ、中止となった取り組みの再開のめどはたっていませんが、次年度にはその取り組みの再開ができるかの判断をしていきたいと思いをします。

「事務」

今年度では、事務業務の見直しも行いました。複数人の事務員がいますが、その仕事内容をしっかり把握をしていなかったり、書類等の管理がずさんになっていたり、個々の仕事として捉えてしまい、チーム支援・チーム業務という意識が薄かったので、今年度正規の事務員を1人雇用して、その正規事務員を中心とした、事務メンバーで事務業務の見直し等も行い、チーム意識を高める意識改革を行っています。現場職員（正規支援員）が行っていた、事務業務も事務員に引き継ぐことで、正規職員（現場職員）の業務整理も同時に行っています。業務整理はこの1年間で一定の成果が出ておりそれは、過去の正規職員の超勤申請等で比較しても、その時間数が少なくなっていると思いをします。

「車両・送迎」

運転手の退職やけがによる長期療養もあり、送迎スタッフの確保が難しい1年でした。送迎に関しては、添乗員の利用者さんの把握の有無の心配を送迎利用者家族から指摘を頂くこともありました。運営的には、送迎には限界があり見直しの対象にはなりません。送迎利用者が90%以上いる中での、見直しはできず、無理をしながらの送迎サービスを提供しているのが現状です。

「食事提供サービス」

メニューの改善や修正等は毎月行っている、「給食委員会」（けやきの家担当者と業務委託契約先「西洋フード」の料理人（けやきの家で毎日作っている人）と管理栄養士）で話し合っています。そこでも調整がいかない場合は、けやきの家管理者と西洋フードエリアマネージャーと話し合い、より良い食事提供サービスが双方提供できるようにすすめています。ただ、個人個人の変更メニューが偏食理由だけではなく、利用者さんの「好き・嫌い」「食べた・食べなかった」で簡単に変更しているのが、毎月全体のメニュー変更だけではなく、個人個人の変更リストを修正する事務時間の確保が必要になります。そのため紙媒体で、メニュー変更を作成していたのを、西洋フードからメニューを紙媒体とデータも一緒にもらい、そのデータから変更するメニューを修正することで事務時間の削減もできています。誤嚥等は給食サービスでは今年度ありませんでしたが、施設外での調理や弁当の際に、詰まるヒヤリハット・インシデント報告が出てしまいました。（詳細別紙2）

「まとめ」

取り組み内容の見直しは、全体を見るのではなく、各取り組みの利用者さんの支援内容を再確認しながら、利用者さんの状態も含め部分的に来年度できる場所から行うことが必要です。また、利用者さんの年齢・運動機能・障がい特性に応じた分野別の取り組み内容が必要かどうか判断していくことも、今後の課題となると捉えています。

そのためにも、スタッフには内外問わず研修の参加を促し、経験だけではなく、知識を養うことが必要となります。今まで「けやきの家」で大切にしてきたことは継承していくことも大切になります。

今後も事務業務全体の見直しを引き続き行い、業務改善・働き方改革を推進していくことも課題です。そのためには、人材の確保が必要不可欠なので、法人本部と協力しながら人材確保も進めていく必要があります。事務・経理では自己負担金の在り方を再度見直していくことも課題となっております。

生産活動では、「生産活動規程」を作成しており、その規程の中で運用していくことになると考えています。また、生産活動会計につきましては、今後もけやきの家との会計は別に行いその旨も規程に入れ込み、健全な会計処理が行う努力をしていきます。ただ、今までの生産活動における本人支給金の支払い方法等が、かなり根っこが深いのですぐに解決できる問題ではないと思います。

今年度、施設整備補助金が県で通りませんでした。来年度も引き続き「輪来工房」の施設整備補助金の申請を行う準備をして、具体的な「輪来工房」の運営内容も「けやきの家 輪来工房 会議」で話し合っていきます。

けやきの家 管理者 山縣聡明

けやきの家・利用状況2019年度

契約者数

総契約者数	49名	
男性	34名	約70%
女性	15名	約30%

性別

区分別	区分4	区分5	区分6	
男性	2	17	15	34
女性	1	5	9	15
	3	22	24	49

年代別	20代	30代	40代	50代	60代	
男性	9	4	18	2	1	34
女性	1	9	5	0	0	15
計	10	13	23	2	1	49

利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
開所日数	21	21	20	22	18	19	21	20	20	19	18	21	240
平均利用日数	19.9	19.9	19.1	21	17	18.2	20.3	18.9	19.2	17.9	17.1	19.7	228.2
利用率 (%)	95	95	96	95	94	96	97	95	96	94	95	94	95

2019年度けやきの家ヒヤリハット・インシデントまとめ（別紙2）

今年度取り組み内容の見直しや、職員の退職が相次いだりして大幅な変更が出てきたので、ヒヤリハット・インシデントの件数が増えると予想していましたが、思ったよりその件数は出てきませんでした。

その要因としては、ベテランパートさんが多くいることで、スタッフ配置を変更してもそのパートさんから聞くことで、職員の戸惑い等が軽減され件数が少なく済んだと捉えています。

年間で51件の「ヒヤリハット・インシデント報告」が出ています。月別（参照①）では6月8件と一番多く、その次に7月となっています。

今回データのまとめではまず、「事故」か「ヒヤリハット」若しくは「その他」と大きく3つに分け、その中でも「事故」に関しては、「内訳」（参照②）を作成して、今後の対策等につなげていく方法にしています。「その他」については、年間で4件出ていますが、「苦情」や「物品」の破損等になっています。「物品」の破損というのは、けやきの家が築20年以上たち、物品の補修等が必要になってきていることが要因です。

「事故」の「内訳」で一番多かったのが、「けが」です。「けが」でも、転倒により「けが」につながったケースが1番「けが」の中でも多かったです。その理由としては、利用者さんの体力や運動機能の低下が、思ったよりも進んでいること、また、支援者側の不注意も挙げられます。過去は階段の下り坂などといった平面ではないところ「転倒」が多く、その場面での支援対応はしっかりできていますが、今年度の「転倒」では平面で「転倒」する場面が出てきています。

2番目に多かったのが「パニック」です。「パニック」による支援対応の際、かまれることや、頭突きをされたことにより、要因が「パニック」としてインシデント報告に上がっています。この報告では、対象利用者さんは2名に絞られています。1名の方は「けやきの家」と契約され2年目の方で、スタッフの多くがまだこの利用者さんのことを把握していない現状があり、利用者さんとの距離感の保ち方・声掛けの仕方、タイミング等が分からないことが多かったです。また「パニック」時に嘔むという情報が学校・家族からのアセスメント段階でも上がっていなかったことも結果、かまれる等につながっています。すぐに、サービス管理責任者を中心に再度この利用者さんのケース検討及び家族からの再度の聞き取り、学校関係者からの聞き取りも行い、この利用者さんについて改めて「知る」機会をつくり、その情報をスタッフにも共有するようにしています。結果、初め当初多くのスタッフが「何故、パニックになったか？」まったく要因が分からなかったですが、日々の振替時の際にこの利用者さんのケースを毎回挙げてもらい、スタッフ同士で「こんなこともできるんだ。こういう場面は気を付けないとね。」と、利用者さんのことを少しずつ理解できるようになり、最近では「パニック」になっても、パニック要因が1つ、2つと推測として上がるようになってきました。ただ、まだパニック要因がしっかりつかめていないので、今後もこの利用者さんのことについてしっかり把握していくことは継続していく必要があります。

もう1人の利用者さんについては、利用者さんのことは前述の利用者さんよりは把握していますが、この利用者さんと多くかかわっていた職員のほとんどが退職しており、今年度当初しっかり把握できているスタッフがあまりにも少なかったため、この利用者さんについても、毎回振りかえり時に必ず1日の様子を挙げてもらい、利用者さんを知るところから、改善を行いました。

それでも、パニックの軽減をしていくことが難しく、頓服の向精神薬の服薬をご家族とも話し合い、場合によっては頓服を利用する形をとっています。少しずつ利用者さんを知ることがかかり方が変わっていると、「パニック」なる前の対応方法を統一されるようになると、自然に頓服の使用頻度も少なくなってきました。また、1対1でしか対応してなかったことが、下半期ぐらいからみんなと一緒に散歩にいたり、取り組みをおこなったりグループ活動にも少しずつ無理がない範囲で参加がまたできるようになってきました。

このパニック対応時に噛まれたことで「労災申請」が今年度6件中4件該当しています。(残りの2件は、取り組みの準備中のやけど、取り組みの作業中における骨折です。)

3番目に多かったのが、同じ件数で「行方不明」と「薬関係」です。

「行方不明」では、新しいスタッフやスタッフの配置転換に伴い、引継ぎがしっかり行うことができなかったことが大きかったと思います。また、スタッフ同士による「声掛け」や「確認」不足も要因としては上げられます。「行方不明」になった場所は全て「岩船」になります。また、「散歩中」が1件出ています。基本的に「目」をスタッフが話した間数分間でいなくなっています。どれも30分以内には見付き、利用者さんに「けが」はなく事件や事故にはなっていません。発見する場所は結局利用者さんが「岩船」に帰ってくる姿を「岩船」付近で見つけるケースばかりでした。目撃情報から推測するといつも行く散歩コースを1人で行って帰ってくるパターンです。

「薬関係」では、服薬忘れ(きまった時間帯)がその中でも一番多かったです。ただ、薬を飲んだかの報告・連絡体制をとっていることから、その日の薬チェック者から指摘され遅れての服薬になっています。また、日中に漢方薬(てんかん発作)と抗てんかん薬を時間差で服薬される方が、その順番を間違えるインシデントが発生しています。このインシデント発生時体調(発作気味)ということも、日中ホームで過ごしていました。いつもは服薬前に他のスタッフに飲む薬を確認してから、服薬をおこないますが、この場面ではホームで1対1の対応していたため、スタッフの順番の思い込みと発作気味になったので、慌ててしまったことが要因となっています。これを機に、漢方と抗てんかん薬を別々の小袋にいれ、漢方のほうには時間帯を表記することで、臨時対応で1人対応の際も、1人で確認がとれるように改善をしています。

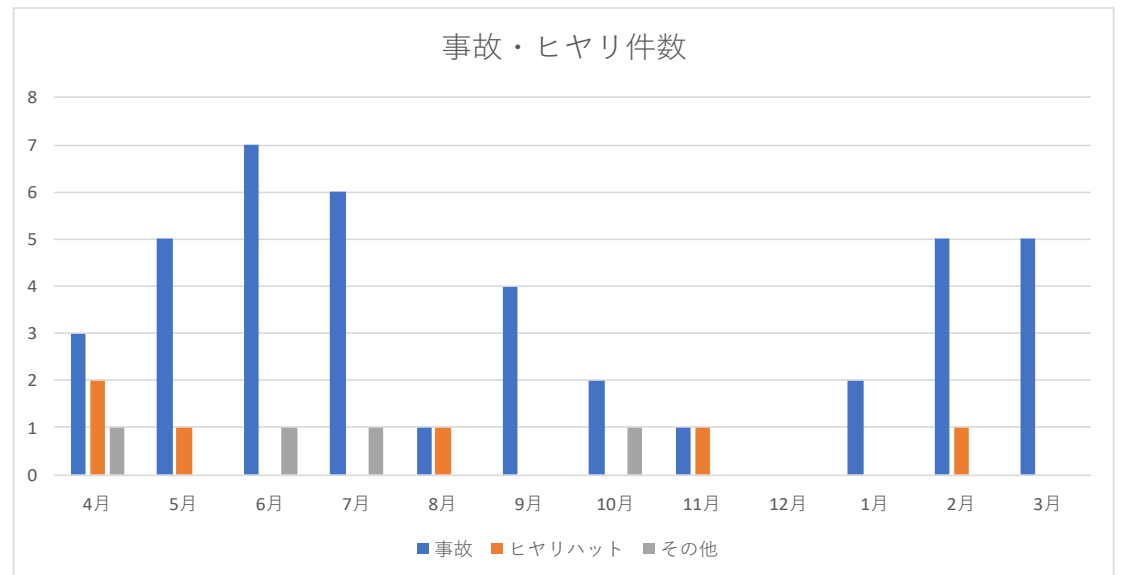
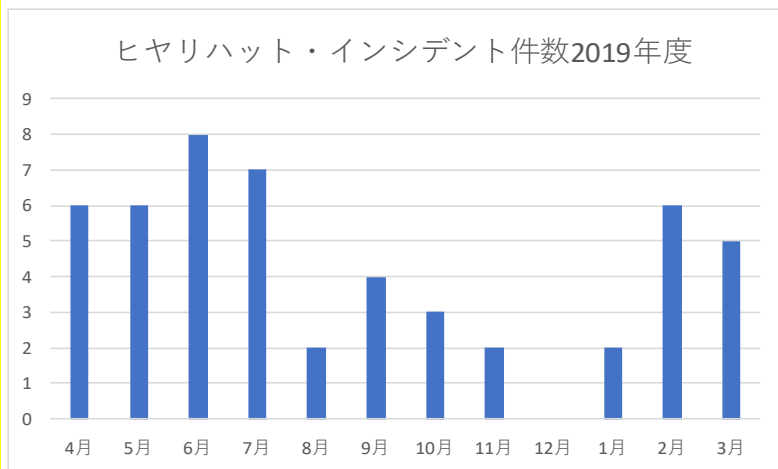
その他のインシデント発生の内訳件数は別紙通りになります。その中でも誤嚥(詰まる)インシデントは、給食のメニューではなく、弁当や外食の際に刻みが甘かったことが要因となっています。また、車内の内容では、取り組みの中で車での移動中信号待ちの間に、横にコンビニがあり、シートベルトとドアロックを外してコンビニってしまうインシデントが発生したため、ご家族説明と同意を頂きその該当利用者さんには簡易的なシートベルトロックをさせていただき、利用者さんの「安全」を優先的に行っています。さらに、個別支援計画にも記載し個別日誌にもシートベルトロック使用した日にその時の様子を記入して、拘束時における人権権利にも留意して支援をおこなっています。

令和2年3月31日
管理者 山縣聡明 印

参照①

月	件数
4月	6
5月	6
6月	8
7月	7
8月	2
9月	4
10月	3
11月	2
12月	0
1月	2
2月	6
3月	5
合計	51

要因	事故	ヒヤリハット	その他
4月	3	2	1
5月	5	1	0
6月	7	0	1
7月	6	0	1
8月	1	1	0
9月	4	0	0
10月	2	0	1
11月	1	1	0
12月	0	0	0
1月	2	0	0
2月	5	1	0
3月	5	0	0
合計	41	6	4



3. 第1けやきホーム

「第1けやきホーム」の概要

事業区分	障害福祉サービスメニュー
共同生活援助事業 (グループホーム)	夜間や休日、共同生活を行う住居で、相談や日常生活上の援助を行います

総括

2019年度開始時に管理者とサービス管理責任者が異動で変更になりました。体制が若干変わり軌道に乗り始めた頃に、退職され、下半期から更に管理者並びにサービス管理責任者が変更となりました。

2019年度の事業所目標に伴い下半期は「利用者さんの事についてみんなで話をする」を更に強化しました。そのことにより、担当者が相談を持ち掛け、他の担当者がそれに答えるという流れができつつあり、住人さんの事を担当職員だけではなく皆で相談し話をする事ができる環境になってきました。

下半期からは「なでしこ」女性ホームの開催に向けて、女性スタッフに協力体制を依頼し3月に開所することができました。更に「しらかば」の泊りも当初1泊でしたが月曜から木曜まで4泊ができるようになりました。

(1) 2018年度2事業体制を運営方針に上げていましたが、サービス管理責任者の単独配置が難しく、2事業所体制が築けませんでした。と報告いたしましたが、2019年度も職員の異動や、退職に伴い「サービス管理責任者」不足により2事業所に分けることはできませんでした。10月には契約書並びに重要事項説明書の変更を行い説明会を開催し新体制のご報告を兼ねて保護者の皆様にお集まりいただきました。

(2) 働き方改革においては、職員の休みの確保から始め、非常勤職員の協力のもと、有休消化も行い、前年度よりは働きやすい環境を作って行けたと思います。具多的には、夜勤の2交代制も試験的にいき、体を休める時間が増えるように勤務配置を考えました。

(3) 10か年計画(365日体制のグループホーム)においては、2018年度より引き続き推進会議で行い、2019年度は、職員が共通のイメージをもって考えていけるように介護保険事業所ではありませんが、平屋で30人余りの入居者の対応をされている事業所見学を行いました。

2019年4月は7ホームでスタートしましたが、2019年度の最後に「なでしこ」の開所が行われました。

各ホームの報告

- ・ゆいまーるまとめ
- ・いまじんまとめ
- ・しおんまとめ
- ・ほくとまとめ
- ・ひまわりまとめ

- ・わだちまとめ
- ・しらかばまとめ
- ・なでしこ（2020年3月開所）まとめ

(4) その他共通事項（詳細は別資料）

①研修、会議

事業所内外研修	6回（職員対象）
会議 推進会議	11回
ホーム会議	12回
ホーム担当者会議	12回

②防災訓練、救命訓練

避難訓練を、2月に各ホームで行いました。
災害時の避難先へのルート確認、危険予測の検討し防災対策を行いました。
非常食として長年保存できるサバイバルフードを検討しています。

③ ヒヤリハット・インシデントについて…別資料

ヒヤリハット・インシデント報告の提出 11件

④事故・苦情について・・・別資料

事故報告の提出 0件

苦情の提出 0件

(イ) 体制

		期初(2019/4)		期末(2020/3)	
		人員	常勤換算後人員	人員	常勤換算後人員
管理者	常勤	0.5	0.5	0.5	0.5
サービス管理責任者	常勤	0.5	15.4	1	17.2
従業者	常勤	5		6	
	非常勤	25		28	

(ロ) 利用日と利用率 別紙参照

ゆいまーる 2019年度 まとめ

今年度のゆいまーるは、利用者さん全員、大きく体調を崩すことなく、利用することが出来ました。毎年冬になると、風邪やインフルエンザを罹患する利用者さんも、体調を崩すことなく冬を乗り切ることが出来ました。これも利用者さんを支援するスタッフの努力、事業所の感染症対策のおかげだと感じます。

また、祝日休日利用の多い年だったように感じます。将来、親様の高齢化、もしくは死別などに伴い、ホームも365日対応が求められる中、自宅に帰らない、ホームで365日対応するということはどういうことなのかと、肌で経験する機会となりました。

利用者さんを尊重した上でのお金の管理、利用者さんの希望に出来る限りそった日中の過ごし方などを考える中で、至らない点、必要なサービスなどが見えてきました。

しかし利用者さん本人は、自宅に帰ることが出来ず、いつもの生活とは違う中でも、ホームではいつもと変わらず過ごすたくましい姿が、将来365日対応に向けて先の見えない中、ひと筋の光の様な安心感を与えてくれました。

ゆいまーる担当 水野 裕也

しおん 2019年度 まとめ

11月に世話人が変わりました。元々宿泊していたスタッフなので皆にこれといった変化は無いように思います。

2019年度は、利用者の転倒や骨折などの怪我が多くありました。加齢と共に足腰に負担が弱っている様に思います。この一年で、健康のすばらしさ、大切さを感じた一年になりました。これからもしおんでは、体調に合わせて睡眠や入浴、食事などに気をつけて支援していきたいと思っています。

嬉しい事もありました。しおんに入って初めて誕生日をしおんで迎えられた利用者もいました。毎年誕生日の時期になると風邪を引いていましたが、お母さんに今年はしおんで誕生日が迎えられるようにしましょうね。と一緒に意気込んでいました。誕生日をホームで過ごす事をうれしいような寂しい様な複雑な気持ちだったそうです。

しおん担当 高木 美帆

いまじん 2019年度 まとめ

2019年度、泊まりスタッフの変動、休日支援の複数スタッフのかかわりが多くありました他ホームの要員確保のため、9月より日曜開催を休止しています。

しかし、泊り勤務は無いものの、土・日を利用する、利用者1名の支援は、必要で朝、夕の支援は他事業所にも、協力を得て継続しています。

前年度同様に、事実上の365日のホーム稼働はしている状況です。

生活面では、複数スタッフとのかかわりが多くなりましたが、戸惑うことなく、受け入れてくれる利用者の成長がみられ支援者側もホットしています。

月1回のレクリエーションは、やや減少傾向ですが、誕生日会、新年会は今まで通り、実施して、楽しく気分転換ができています。

夏季は温暖化の影響もあり猛暑が続き、室内温度の上昇が見られましたが、室内各部屋の温度調節を行い乗り越えました。この間、体調不良で休まれることも少なく過ごせました。

冬季は、インフルエンザの流行やコロナウィルスの影響は今のところありません。

ドアノブやリモコンなど、利用者が接触する箇所の消毒、利用者の手洗いなど、徹底して行ってきました。

各人の健康面では、高血圧治療を継続中の住人さん、深夜覚醒が増してきた住人さん、様々で、いずれも投薬治療は継続しています。加齢の影響は考えられますが、服薬量が増していることの影響は避けられなくなってきました。

短期記憶の低迷、足腰の弱体化が見られる利用者さん等、明らかに加齢に伴う変化が見られはじめており、年を追うごとの加齢チェックや支援方法の改善が課題となってきましたホームの設備においては、劣化により、浴室のシャワーが故障して交換作業を迅速に行っていただきました。

今後のホームの課題としては、利用者の健康診断等の結果などを重視し、生活環境の改善は必要と感じています。これからも、住人さんの健康面での維持・向上を図ると共に、変化を見逃すことなく、支援を進めていかなければならないと考えております。

いまじん担当 日比野 憲正

ほくと 2019年度 まとめ

今年度は、ホームの体制が変わり、上半期は色々とバタバタしていたような印象があります。住人さんに対しては、影響を少なくと努めてきましたが、少なからず変更と言われてから、移行するまでの間は、落ち着かなかったこともありました。

住人さんによっては、病気の症状によって、薬の変更が数か月ごとにありましたが、服薬や塗布の周知は、できたように思います。

居間に、業務用の加湿器を設置した効果が少しあったのか、わかりませんが、インフルエンザなどで、長期に休まれることは、少なかったように思います。

また、親御さんの体調不良や入院などで、土日利用が数回ありましたが、今後も気兼ねなく利用できるように、体制を整えていきたいと思えます。

ほくと担当 桑田 大輔

18

ひまわり 2019年度 まとめ

2019年度になり「ひまわり」はスタッフの変更があり、以前と雰囲気随分と変わったように感じます。自分の思いや考えをしっかりと出せれるようになっていきます。時にはスタッフとすったもんだする事もありますが、萎縮せず自分の感情を出せる事は決して悪い事ではない様に思い、きちんと話をし納得してもらおう機会が増えていきます。他愛のない会話もたくさん増え、笑顔も増えていきます。

そして、毎日、4人でけやきの家に行って4人で帰って来る生活を続けていた「ひまわり」ですが、年度末になり仲間の一人が新しく立ち上げられたグループホーム「なでしこ」にお引越しましました。みんなで過ごす最後の日にささやかな送る会を行い「ありがとう」の感謝と「元気でね」の言葉で送り出しました。「寂しい」の言葉は禁句として、明るく元気な会に出来て良かったと感じました。

2020年度からは住人さん三人の生活になりますが、皆さんご自分のペースでゆったり・のんびり、時にはあたふたと生活して行ってくれば良いなと思っています。

「ひまわり」では特別な事はしませんが、住人さんたちが日々穏やかに安心して生活できるように支援していきたいという思いは変わりません。

ひまわり担当 松澤 美鈴

わだち 2019年度 まとめ

泊まる人がほとんど固定されたことにより、利用者さん達にもそれぞれ変化が見られるようになってきました。

泊まる人によって態度が変わり、それぞれ自己主張が強く出てきた年でした。お手伝いをしてくれる方、我が道を行く方、自分の思っている事をはっきり言ってくる方、皆さんが自分らしく生活をしてれています。

ですがその中で、身体的に落ちてきたと分る方達もいました。足の運びが悪くなってきたので段差などは手を繋いだりしないと登れない、少しの段差でも躊躇する。便の出が悪くなったり、体力が落ちてきた為か夕方になるとウトウトされることも増えました。

ある方は他の方よりも水分を多くとっているのに急に熱発が起こる事が増えていきました。通院するもその原因がなかなかつかめず、その場しのぎでの対応を取らざるを得ませんでした。そうこうしているうちに他の問題が浮上し最終的には精密検査を受けるなどして原因等知る事ができましたが、本人の負担は変わらず、今までと同じ生活をおくる事になりました。

今後、そのような身体的な面での支援が増えていくと思います。その為、こちらも対応できるようにスタッフ間での話し合いをし、どのように今後支援を行っていくのかを考えていきたいと思っています。

わだち担当 青木 祐太

しらかば 2019年度 まとめ

2019年度しらかばは、新しくスタッフが増えたことにより、利用者さんの様子に注意しながら、段階的に宿泊日数を増やすことができました。11月よりそれまでの週1泊から週3泊へ、1月から週3泊から週4泊へと増やしてきました。ホームで4泊するとなると、暮らしの基本が家からホームへと変更になり、ホームでの暮らし方により利用者さんの全ての生活の質が決まってくるようになります。

夜眠れているのか？排便しているか？食事はしっかり食べられているか？など健康状態により注意をむけながら、楽しく安心して過ごせるようにと生活の質にも目を向け支援してきました。宿泊日数が増えた当初は、今日は自宅に帰るのか、ホームに泊まるのかわからず不穏になるということや家で毎日排便している方の排便が数日確認できないということもありましたが、ホームで過ごす日数が増えるに連れて、現在は安心してホームで生活を送られています。

しらかば担当 水野 裕也 / 日比野 憲正

なでしこ 2019年度 まとめ

なでしこステキな名前です。

なでしこは2019年の11月から2020年4月の開所に向けて、まずホーム内の物品や家電を揃えました。あれこれ生活しやすいように頑張って考えました。その後、保護者さんからの聞き取りを行い、ホームでメンバーと一緒に過ごす時間を作るようにしました。皆さん、けやきの家と一緒に過ごす時間も持っていたためあまり抵抗は無い様に感じました。

その上で、ホームで入浴をしてみる、夕食を食べてみる、と慣れて行ってもらってから宿泊に漕ぎつけました。慣れない場所のため眠れないかなあと心配もしました。

まだまだ課題もたくさんありますが、利用者さんの潜在能力を信じて、いろいろな方々のお力をお借りて、なでしこの皆さんの生活を安定させ安心して過ごしてもらえるようにして行ければ良いなあ、と考えます。

なでしこ担当 松澤美鈴/高木美帆

2019年度ヒヤリハット・インシデント報告一覧

	発生日	ホーム名		内容	要因	対策
1	6月18日	ゆいまーる	怪我	夕食の薬服用後、もう少し水分が欲しいと要求をしたが、別の利用者が片付けようとしたため手首を強くつかみすぎて傷ができた	お茶をお替りするのはいレギュラーな行動であり、イライラ感もあったかもしれない。また、通常と違う状況に片付けようとする利用者も柔軟に対応はできなかった	利用者さん同士のやり取りについてお互いの話をきいて対応する
2	7月5日	わだち	怪我	利用者が夜中トイレにいた後、世話人室のドアを無理に開けようとし、指をねじ込んでしまったため中指を負傷	口が乾いて何か飲み物が欲しかったと思われる	世話人室の鍵は閉めたままで対応します。夜中の動きに注意して対応したい
3	7月16日	いまじん	服薬忘れ	就寝前の服薬を忘れた	自ら服用する利用者さんのケースに入ってしまったになっていた薬の確認ができてなかったため	まれに通常と異なる行動があるため立ち合いで服用の確認を必ず行う。薬ケースが空になっていることを確認する
4	9月13日	ひまわり	殺虫剤使用未遂	虫がいることを察知し、殺虫剤を使用した様子。目に涙が出ていたため、触ったかもしれない	世話人室に出入りすることで、殺虫剤の場所を知っている事や、使い方を知っている事	殺虫剤は危険なので、見えるところに置かない
6	10月5日	いまじん	パニック	車のドアを開けようとし、外に出て突然走り出し、向の家の車のボンネットをたたいた。	父親が迎えに来て、そのまま車に乗るものと思われたが、車に乗らなかった。また、たたいた後、そのまま車に乗って帰ってしまった	車に乗り込む際はどんな状態でも車の前方にたち確実に乗り込んだことを確認する。また、パニックの状況によっては、帰宅を少しずらし落ち着くまで待ってから帰宅するようにする。

7	12月5日	しおん	怪我	夜中トイレで座って倒れた	トイレ誘導はしているが、夜中に一人でトイレに行きまわったことに気付かなかった。倒れる物音で気づいた。	夜中のトイレに気付くようにする。また、先にトイレ誘導できるようにする
8	12月8日	いまじん	服薬忘れ	朝食後の服薬忘れ(4日間)	通常利用者本人が主体的にケースから出して服用する。風邪薬も処方されておりケースに入らなかったため別においていた。チェックシートは〇がついていたため、服用を信じてしまっていた。	本人服用後、薬ケースの中を確認することを徹底する。ケースに入りきらなかった薬の事を考えケースを大きくする。前日の職員もクサリの確認をする
9	2月18日	いまじん	誤薬	夕食時に飲む薬を誤って飲んだ	いつも薬のケースを自分から出して飲むのだが、その日は朝誤って夕方の方の薬を出してきて飲んでしまった	朝自分で出してきた薬が朝飲むものなのかクサリ箱の中身をチェックする
10	3月4日	いまじん		夜中に玄関、ゲートを開け外に出てしまう	パニックの一つかと思われるが、思い出しが激しい様子があり、前日夕食時にも小パニックを起こしたことがあった。物音に気付いたときは既に玄関を出たところだった	玄関のかぎの開け方も知っており、ゲートの扉もダイヤルロックなどで簡単に開けられないようにする必要がある
11	3月9日	ゆいまーる	誤薬	薬セットの配布間違いによる誤薬	夕食時、利用者さんの薬を他の利用者さんに間違えて置いてしまったことにより、間違えて飲んでしまった。	薬剤師に電話での見合わせの確認をする。便が柔らかくなるくらいで大きな問題は無いと言われるが、いつもの通りではなく毎日毎回確認を徹底する

2019年度 各会議 一覧

推進会議

日時	時間	会議名	内容	参加者
4月5日	13-15	推進会議	2019年度のホームの運営方針	7名
5月	中止		中止	
6月7日	13-15		各ホームの報告/けやきの家新スケジュール	6名
7月5日	13-15		看取りを含めた365日の支援ができる施設	6名
8月9日	13-15		管理者退職の報告	6名
9月6日	10:30-12:30		管理者退職に伴う今後について	7名
10月25日	13-15		第1けやきホーム保護者説明会の打ち合わせ他	6名
11月5日	10-11:30	推進会議 (保護者説明会)	保護者説明会開催(契約書について)	9名
12月3日	10:30-12:30	推進会議	生活日記記録について	6名
1月7日	10:30-12:30		避難訓練/365日ホームについて振り返り	7名
2月12日	14-15:30		あいあいの里見学	7名
3月3日	10:30-12:30		コロナ禍について/あいあいの里について	7名

23

ホーム会議

日時	時間	会議名	内容	参加者
4月16日	10:30-12	ホーム会議	各ホームからの報告	8名
5月14日	10:30-10		各ホームからのインシデント報告	8名
6月11日	10:30-11		各ホームからの報告	7名
7月9日	10:30-12		各ホームからの報告	7名
8月20日	10:30-12		各ホームからの報告	9名
9月10日	10:30-13		各ホームからの報告	6名
10月8日	10:30-12		管理部より諸連絡と利用者さんについて	7名
11月12日	10:30-11		諸連絡とインシデント報告	8名
12月10日	10:30-12		各ホームからの報告	10名
1月21日	10:30-12		事務連絡と各ホームからの報告	10名
2月18日	10:30-12		各ホームの利用者について	8名
3月10日	10:30-12		コロナ対策とインシデント報告	11名

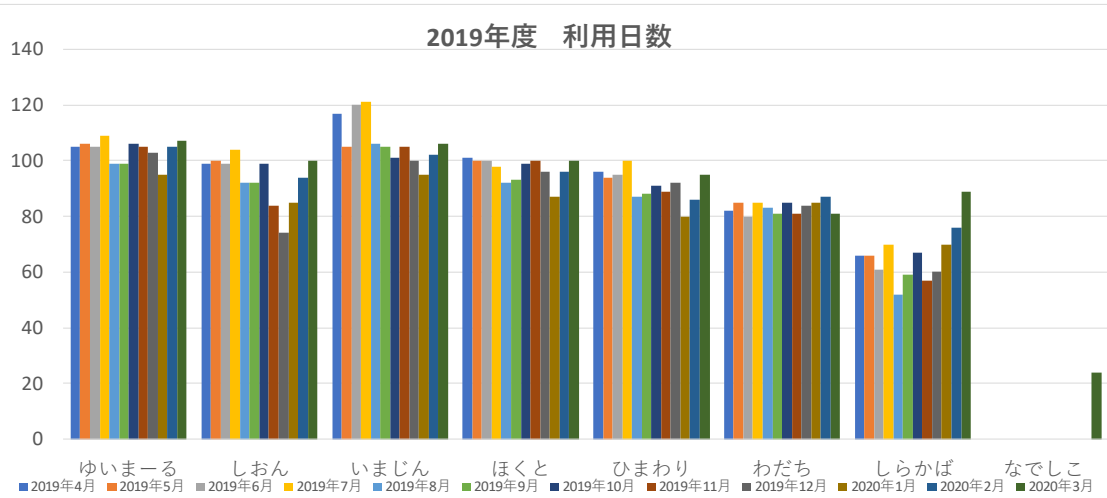
ホーム担当者会議

日時	時間	会議名	内容	参加者
4月26日	13-15	担当者会議	利用者さんの個別支援計画について話す	5名
5月24日	13-15		※睡眠について	4名
6月28日	13-15		利用者さんについて	5名
7月26日	13-15		スタッフ間の困っている事	5名
8月30日	13-15		修繕・研修・10月以降について	6名
9月27日	13-15		※成年後見について	6名
10月25日	13-15		保護者説明会について	6名
11月26日	13-15		個別支援計画、個別日誌の作成・記入について	7名
12月24日	13-15		利用者さんについて	6名
1月28日	13-15		研修について	5名
2月25日	13-15		※オムツについての研修	6名
3月17日	13-15		事務連絡となでこの近況報告	7名

※ 内部研修を兼ねている

★2019年度 第1けやきホーム ホーム別開催日数

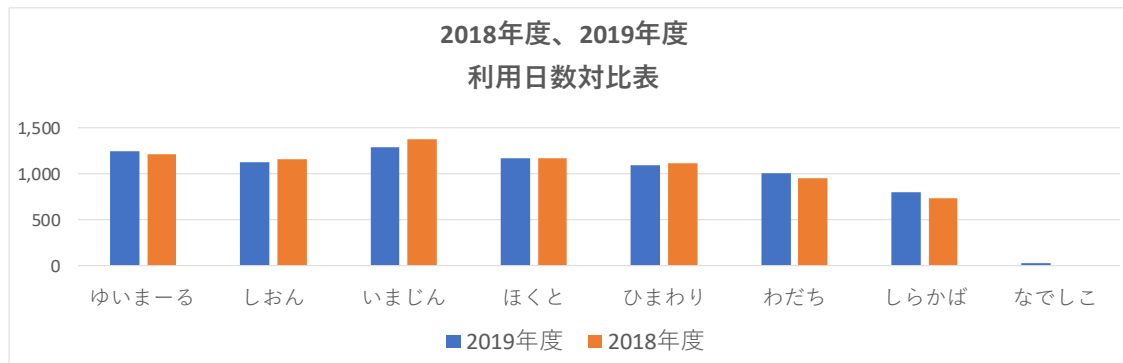
	ゆいまーる	しおん	いまじん	ほくと	ひまわり	わだち	しらかば	なでしこ	利用日数計
2019年4月	105	99	117	101	96	82	66	0	666
2019年5月	106	100	105	100	94	85	66	0	656
2019年6月	105	99	120	100	95	80	61	0	660
2019年7月	109	104	121	98	100	85	70	0	687
2019年8月	99	92	106	92	87	83	52	0	611
2019年9月	99	92	105	93	88	81	59	0	617
2019年10月	106	99	101	99	91	85	67	0	648
2019年11月	105	84	105	100	89	81	57	0	621
2019年12月	103	74	100	96	92	84	60	0	609
2020年1月	95	85	95	87	80	85	70	0	597
2020年2月	105	94	102	96	86	87	76	0	646
2020年3月	107	100	106	100	95	81	89	24	702
合計	1,244	1,122	1,283	1,162	1,093	999	793	24	7,720



※3月よりなでしこ後開所しました。
 ※しらかばは木曜日まで泊まるようになりました。

★開催日数（前年度2018年度）との比較

	ゆいまーる	しおん	いまじん	ほくと	ひまわり	わだち	しらかば	なでしこ	合計
2019年度	1,244	1,122	1,283	1,162	1,093	999	793	24	7,720
2018年度	1,205	1,152	1,371	1,165	1,109	951	734	0	7,687



※開催日数的には2018年度とあまり変わりませんが、支援内容が宿泊を伴う支援が増えたので、収入は上がっています。

★2019年度区分表

	ゆいまーる	しおん	いまじん	ほくと	ひまわり	わだち	しらかば	なでしこ	利用日数計
区分4	0	0	1	0	1	1	0	1	4
区分5	2	1	2	1	1	2	0	1	10
区分6	2	3	1	3	2	0	4	1	16
合計	4	4	4	4	4	3	4	3	30

★2019年度の利用率

区分	開催日数	利用日数	利用率
区分4 (4名)	940	925	98.4%
区分5 (10名)	2,839	2,744	96.7%
区分6 (16名)	4,145	4,042	97.5%
30名	7,924	7,711	97.5%

※全体的に利用率が高く、どの区分でも95%以上を占めています。

4-1. れすば

「れすば」の概要

事業区分	障害福祉サービスメニュー
障害福祉サービス事業 (訪問系)	居宅介護(身体介護、家事援助、通院等介助、乗降介助) 重度訪問介護、行動援護、同行援護
地域生活支援事業 (春日井市補助事業)	移動支援

総括

昨年 2018 年度に児童分野や高齢者分野等、新たなニーズに応えるべく、職員が一丸となり、それぞれの得意分野を生かして挑んだことで「達成」という結果のでた変化と成長の一年であった。とご報告させていただきました。今年度 2019 年度は「達成」したものを新しく「再出発」した1年となりました。4月より始めた「日中一時支援事業」は2月には「放課後等デイサービス」となり、65歳問題のあった「れすば～紙ふうせん」は、介護保険事業所との支給単位数の兼ね合いで、実際には「介護保険」ではなく、「障がい分野」での受け入れに戻ってしまいました。従来の「居宅介護」「移動支援」は共に質に拘った「安心・安全」に力を注ぎできました。今年度の末には「コロナ禍」が発生し、何とか外出場所を公共交通機関等を使わず、散歩、公園で遊ぶなどに切り替え、利用者さんやスタッフの安全を確保しながら、大幅な収入減にもならないように工夫してきました。また、「コロナ禍」の影響により「懇親会」を開催することもできませんでした。その分「れすばたいむず」(新聞)で「れすばの近況、ご案内」をお知らせしてきました。2020年度は「コロナ禍」も終息し、利用者さんの「安心・安全」を利用者、スタッフ、保護者の方々と共有していきます。

(1) 「居宅介護」について

利用者さんその家族の加齢に伴い、入所施設やショートステイの利用が増えており、それに伴い、身体介護・家事援助といった、ご家庭での支援が減った。

また、利用者さんが長期入院されたこともあり、同様に支援が減った。

昨年度に比べ、さらに加齢に伴うニーズの変化が浮き彫りになった年であり、真に必要とされる支援の形へ、変化、対応していく一年となりました。

(2) 「移動支援」について

支援希望時間帯が重なることが多く、利用者さんに協力いただき、時間や日付を変更して、ひとりでも多くの利用が出来る様に工夫させていただきました。

行先の増加や、利用目的の多様化も昨年度同様にあり、利用者さん・ヘルパー・サービス提供責任者とコミュニケーションをとり、「楽しい外出」を目指し取り組むことができました。

(3) 「れすば24」について

福祉有償運送については、安全運転の意識が高い状態で保たれ、よりよい運行ルートの相談などもみられた。しかし、利用希望の重なりによる、運転者不足という点は引き続き解消されていない。福祉有償運転者講習も新型コロナウイルスの影響により、開催延期となっていて、新規運転者の確保が遅れている。

緊急利用や、それに備えた相談などがあり、柔軟な対応を行うことができた。泊り依頼も3件あり、職員が協力しあい、れすば館内での宿泊を行った。

また、通常のサービスでは対応できない範囲での支援依頼があり、利用者さんの自立に向けた県外への1泊旅行を行った。

(4) その他共通事項 (詳細は別資料)

①研修、技術指導会議等

事業所内研修 : 12回 (全員対象)
事業所外研修 : 21回 (個別)

②防災訓練、救命訓練

防災訓練は、6月に事業所内研修として、災害時の事務所から避難先へのルート確認、危険予測の検討し防災対策を実施。

救命訓練は、消防署の方に来ていただき、12月に実施。

③ヒヤリハットについて…別資料

ヒヤリハット報告の提出9件。

④事故・苦情について・・・別資料

事故報告 (物損含む) の提出 3件
苦情の提出 1件

(イ) 体制

		期初(30/4)		期末(31/3)	
		人員	常勤換算後人員	人員	常勤換算後人員
管理者	常勤	1	1	1	0.5
サービス提供責任者	常勤	3	7.5	2	6.3
従業者	常勤	2			
	非常勤	11		11	
資格保有者 (重複あり)	介護福祉士 実務者研修修了者	8		6	
	初任者研修 ヘルパー2級	16		15	
	行動援護資格保有者	10		8	
	同行援護従事者	7		5	

a.年齢構成

	～18歳	19～25歳	26～30歳	31～35歳	36～40歳	41～45歳	46～50歳	51歳～	合計
居宅介護等	0	7(1)	2	5(3)	5(3)	9(2)	7(1)	5(1)	40(11)
けやき&ホーム	0	0	0	2(2)	0	5(2)	5(1)	0	12(5)
けやき ホーム	0 0	0 6(1)	0 1	0 3(1)	0 5(3)	1 0 3	1 0 1	0 5(1)	4 24(6)
居宅+移動支援	0	1	0	3	3	2	1	1	11
移動支援	2	4(1)	4	9(3)	5(3)	3(2)	8(1)	2(1)	37(11)
けやき&ホーム	0	0	0	4(2)	1(1)	3(2)	7(1)	1	16(6)
けやき ホーム	0 0	0 4(1)	0 1	1 4(1)	0 4(2)	0 0	0 1	0 1(1)	4 17(5)
計	2	10	6	11	7	10	14	6	66
れすば24	5(2)	5(5)	4(4)	7(6)	4(4)	6(6)	10(10)	2(1)	43(38)
合計	5	10	6	12	7	10	14	7	71

*注居宅移動支援は、居宅介護と移動支援の両方を利用している人
 *居宅移動の()内の数字は両方契約している人の数
 *れすば24の()内の数字は24と居宅もしくは移動を契約している人
 *計は、両方利用している人を考慮した数値 契約実数

*合計は、24を含めた実契約実数
 *けやき、ホームの数値は両方利用している人も実数1として計上
 *「居宅介護等」=身体、家事、通院、乗降、重訪、行動、同行)の人数

障がい支援区分

	児童	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	合計
居宅介護等	0	0	0	5(1)	8(4)	10(4)	17(2)	40(11)
けやき&ホーム	0	0	0	0	1	3(3)	8(2)	12(5)
けやき ホーム	0 0	0 0	0 0	0 5(1)	0 7(4)	2 0 5(1)	2 0 7	4 24(6)
居宅+移動支援	0	0	0	1	4	4	2	11
移動支援	2	0	1	3(1)	8(4)	13(4)	10(2)	37(11)
けやき&ホーム	0	0	0	0	2	8(3)	6(2)	16(5)
けやき ホーム	0 0	0 0	0 1	0 3(1)	0 6(4)	0 5(1)	4 0 0	4 17(6)
計	2	0	1	7	12	19	25	66
れすば24	5(2)	0	0	3(3)	8(7)	10(9)	17(17)	43(38)
合計	5	0	1	7	13	20	25	71

*注居宅移動支援は、居宅介護と移動支援の両方を利用している人
 *居宅移動の()内の数字は両方契約している人の数
 *れすば24の()内の数字は24と居宅もしくは移動を契約している人
 *計は、両方利用している人を考慮した数値 契約実数

*合計は、24を含めた実契約実数
 *けやき、ホームの数値は両方利用している人も実数1として計上
 *「居宅介護等」=身体、家事、通院、乗降、重訪、行動、同行)の人数

障がい種類別

	身体	身知的	身精神	知的	知精神	精神	合計
障がい者	5	8(2)	2	21(8)	1	3(1)	40(11)
けやき&ホーム	0	4(1)	0	7(4)	1	0	12(5)
けやき ホーム	0 0	0 4(1)	0 2	4 10(4)	0 0	0 3(1)	4 24(6)
居宅+移動支援	0	2	0	8	0	1	11
移動支援	0	5(2)	0	29(8)	0	1(1)	35(11)
けやき&ホーム	0	3(1)	0	13(4)	0	0	16(5)
けやき ホーム	0 0	1 1(1)	0 0	3 13(4)	0 0	0 1(1)	4 15(6)
計	5	11	2	42	1	3	64
れすば24	1(1)	8(8)	0	28(26)	1(1)	0	38(36)
合計	5	11	2	44	1	3	66
障がい児	0	0	0	0	0	0	0
けやき&ホーム	0	0	0	0	0	0	0
けやき ホーム	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0
居宅+移動支援	0	0	0	0	0	0	0
移動支援	0	1	0	1	0	0	2
けやき&ホーム	0	0	0	0	0	0	0
けやき ホーム	0 0	0 1	0 0	0 1	0 0	0 0	0 2
計	0	1	0	1	0	0	2
れすば24	0	1(1)	0	4(1)	0	0	5(2)
合計	0	1	0	4	0	0	5
障がい者と障がい児合計	5	12	2	48	1	3	71

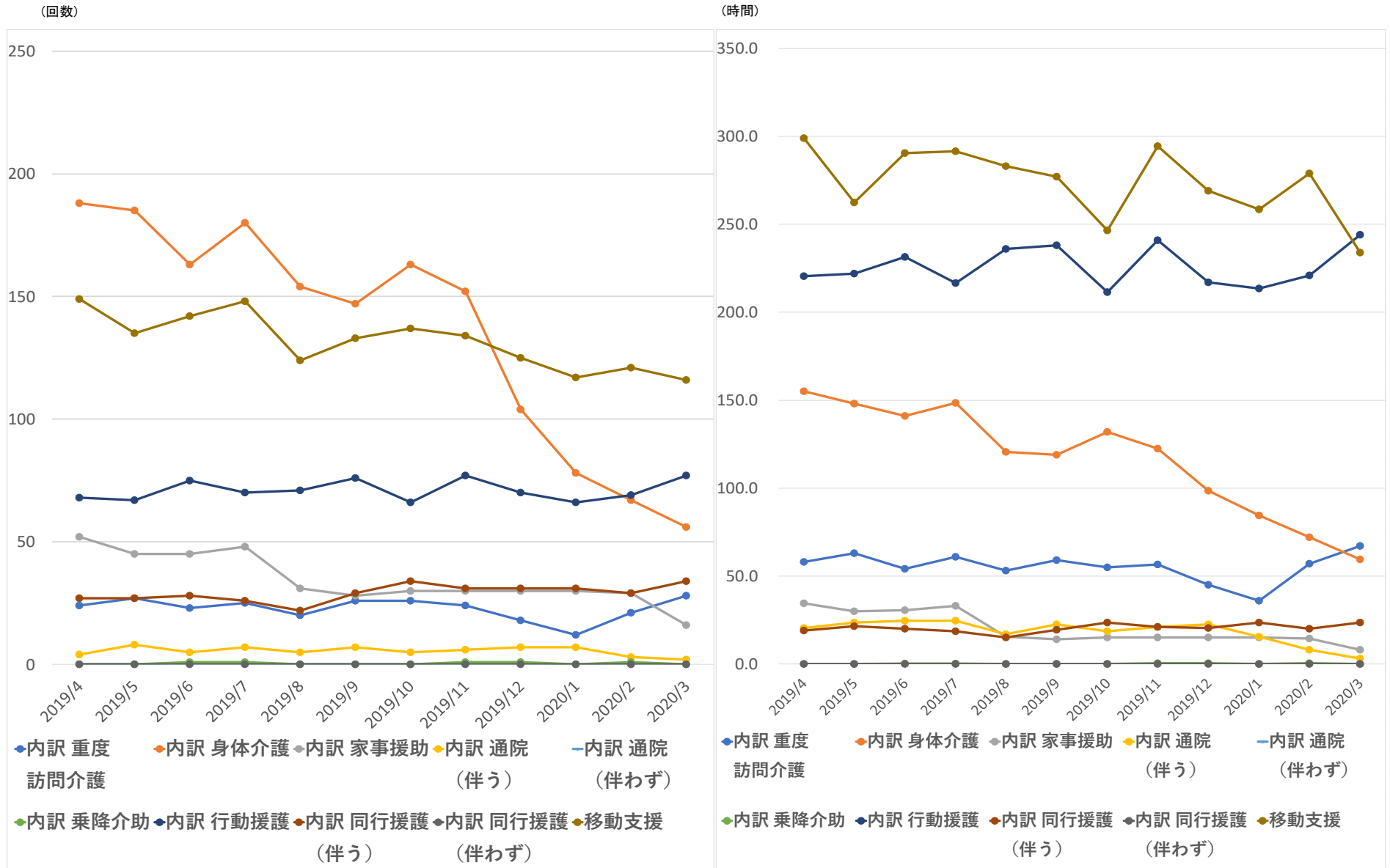
*注居宅移動支援は、居宅介護と移動支援の両方を利用している人
 *居宅移動の()内の数字は両方契約している人の数
 *れすば24の()内の数字は24と居宅もしくは移動を契約している人
 *計は、両方利用している人を考慮した数値 契約実数

*合計は、24を含めた実契約実数
 *けやき、ホームの数値は両方利用している人も実数1として計上
 *「居宅介護等」=身体、家事、通院、乗降、重訪、行動、同行)の人数

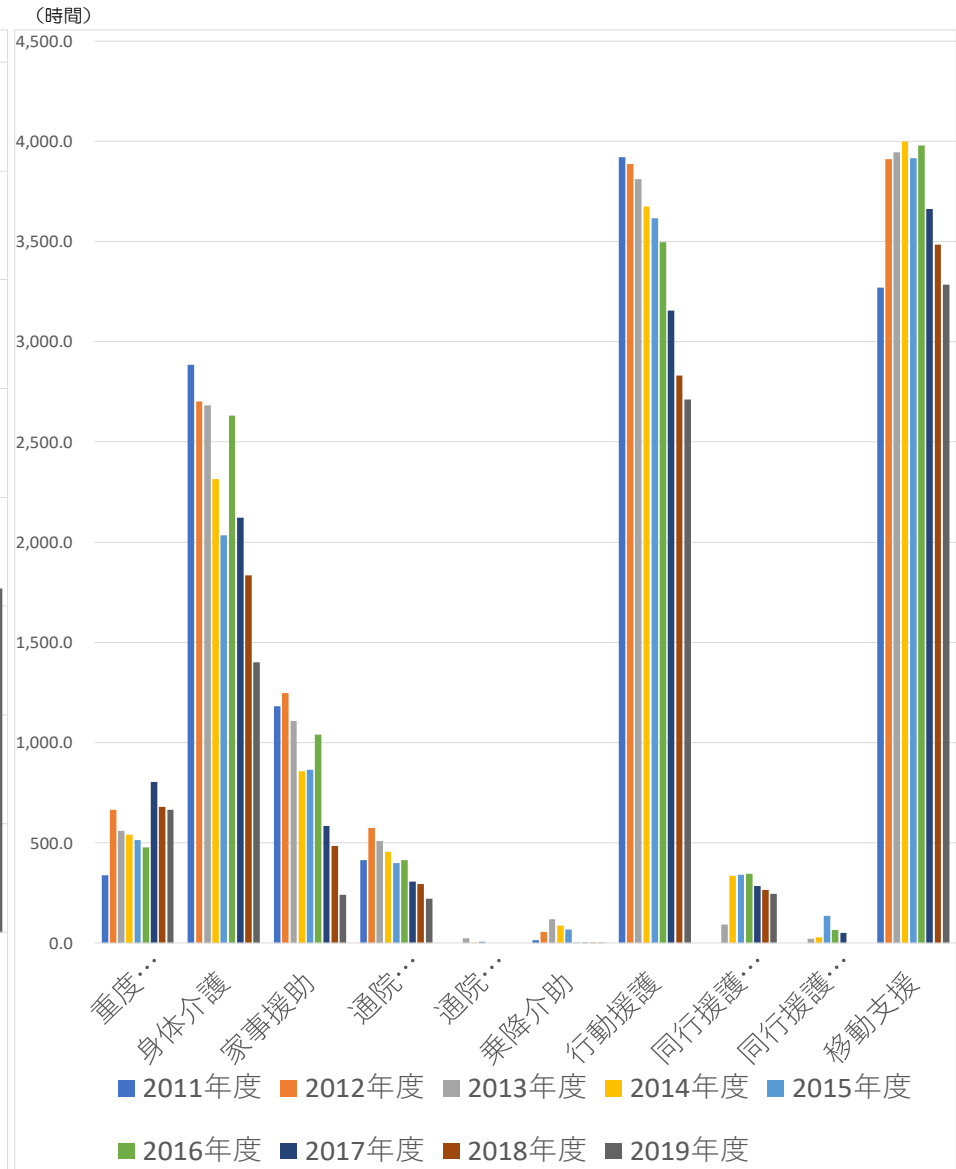
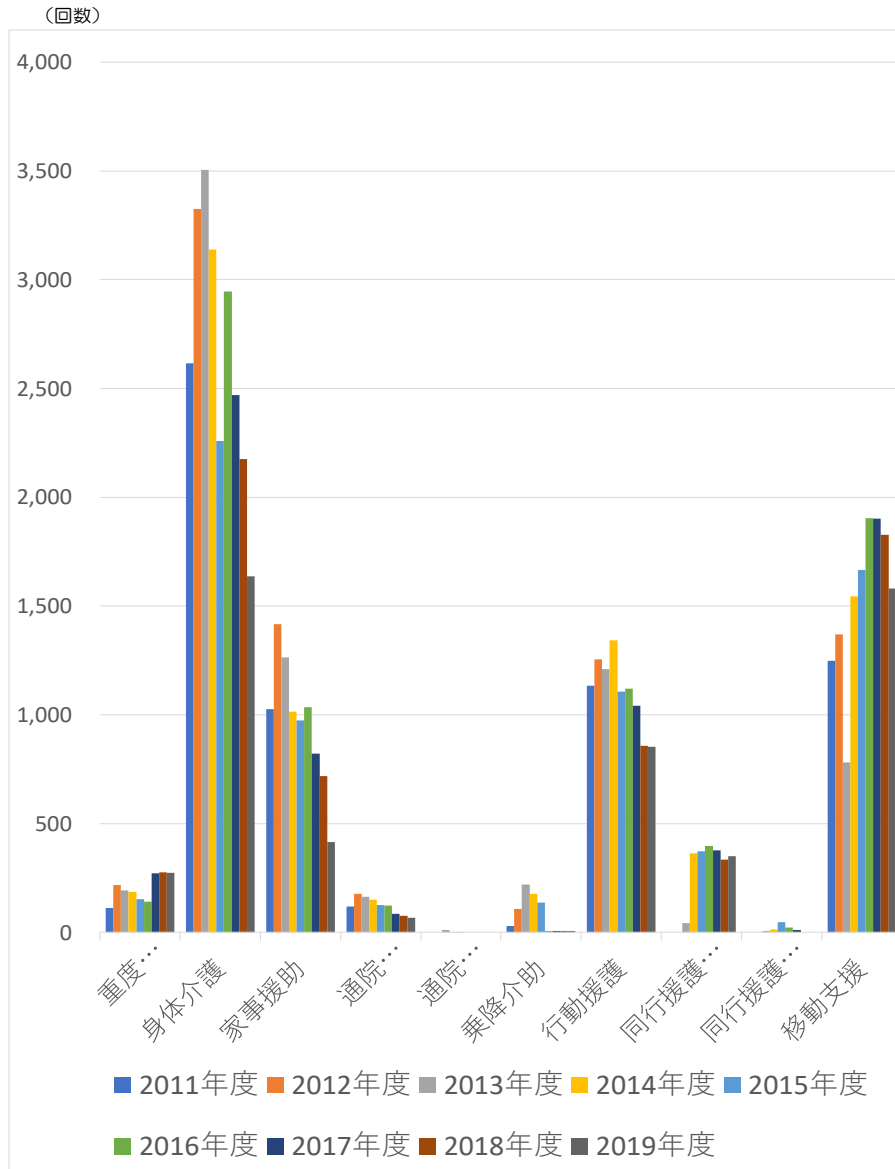
防災訓練、救命訓練

防災訓練は、8月に2回事業所内研修として実施 避難場所へ避難
 :消防庁の防災マニュアルより 地震対策(屋内編参照)
 救命訓練は、2回実施 外部講習会と事業所内研修

2019年度 月別【居宅支援】【移動支援】実績まとめ

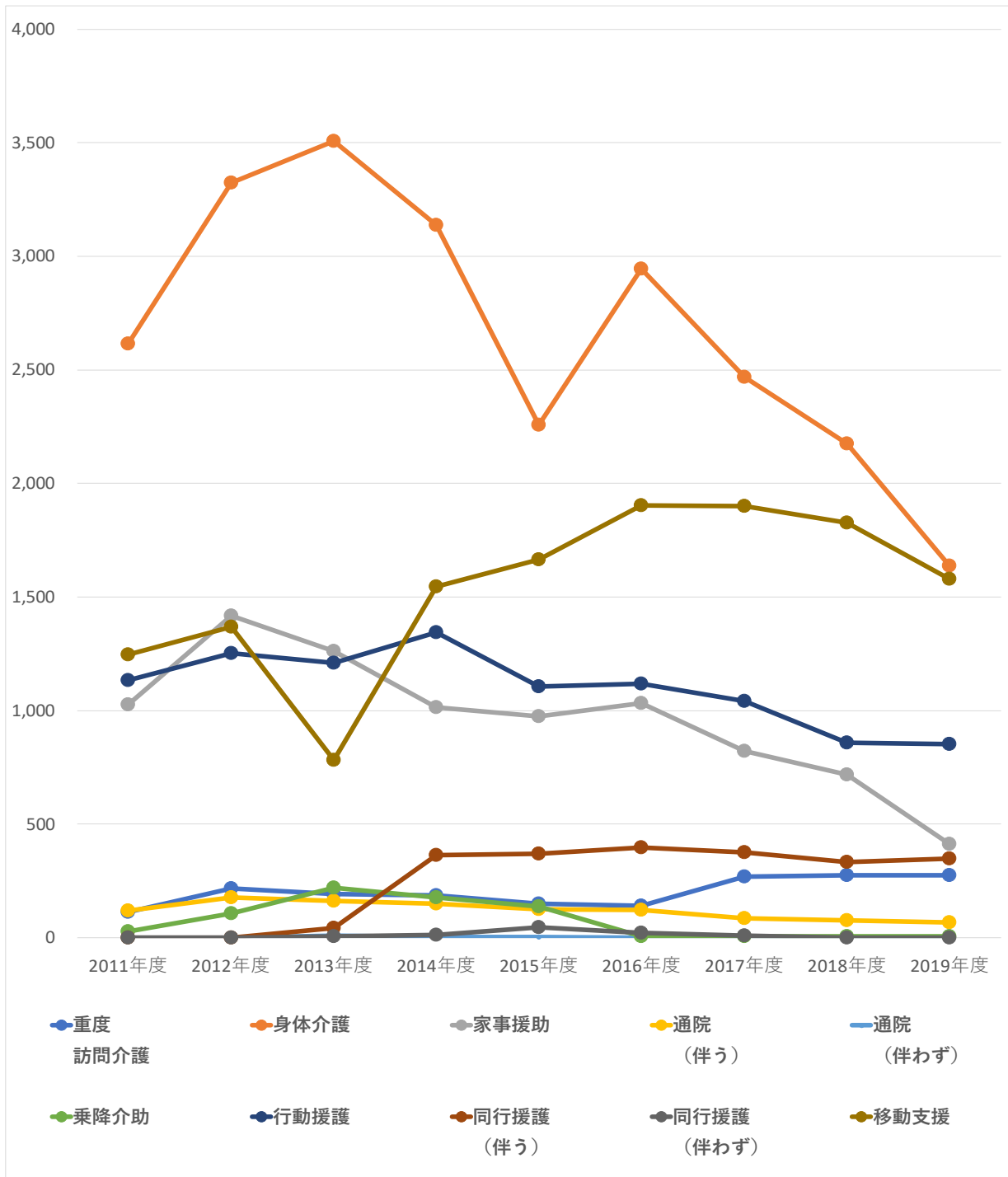


年度別 【居宅支援】 【移動支援】 実績まとめ



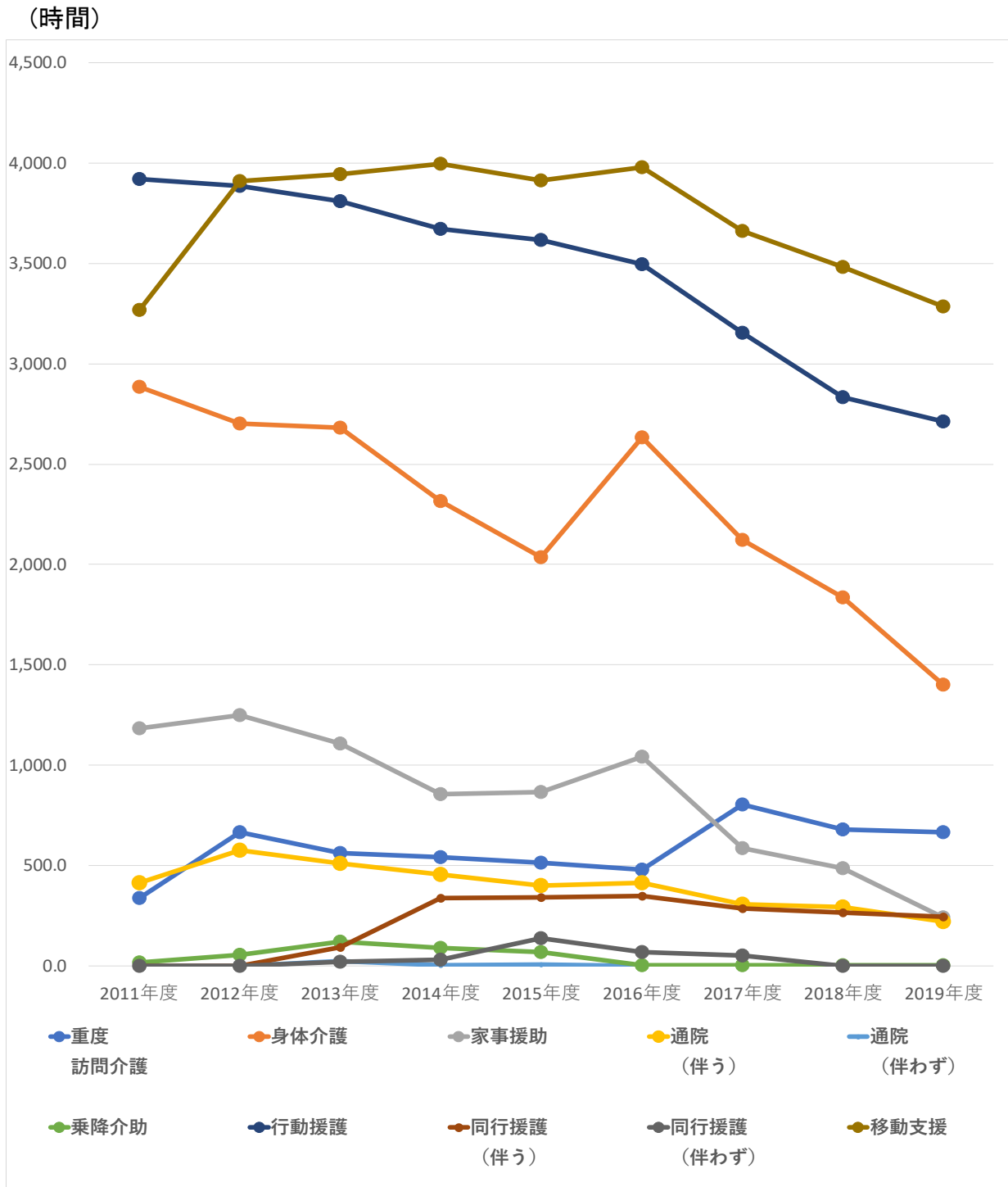
年度別【居宅支援】【移動支援】実績まとめ

(回数)



補足

- ・身体介護や家事援助、移動支援は、利用者の長期入院やグループホームへの入所があり、利用が減少した。
- ・通院介助は利用が定着してほぼ横ばい。
- ・移動支援は利用希望はあるが、ヘルパー不足や利用希望の時間帯が重なり受けきれず、時間数が減少している。
- ・重度訪問介護は利用者の増減もなく、定期利用によりほぼ横ばい。



補足

※回数と同様。

れすば24

	登録会員数		支援回数		支援時間		宿泊利用回数	
	2019年度	2018年度	2019年度	2018年度	2019年度	2018年度	2019年度	2018年度
2019/4	43	40	45	50	41.35	86.85	0	0
2019/5	43	40	45	69	58.55	113	1	0
2019/6	43	40	49	71	52.1	121.75	0	0
2019/7	43	40	55	81	89.5	144.35	0	0
2019/8	43	40	25	17	59.25	19.35	0	0
2019/9	43	40	40	60	65.05	109.6	0	0
2019/10	43	41	36	70	43.6	101.95	1	0
2019/11	43	41	38	68	43.45	100.8	0	0
2019/12	43	41	33	46	38.2	76.15	0	0
2020/1	43	41	38	61	57.05	106.8	0	0
2020/2	43	43	36	64	78.2	101.55	1	0
2020/3	43	43	13	38	15.6	57.7	0	0
合計	44	43	453	695	641.9	1139.85	3	0

2019年度技術指導会議等 研修計画

年間研修計画 （第2又は第3月曜に開催）

	研修予定	実施研修
4月	就業規則、ケース検討	ケース検討
5月	ボディメカニクス	ボディメカニクス
6月	防災訓練	呼吸器
7月	熱中症と食中毒	熱中症
8月	ケース検討	避難訓練
9月	時短料理	アンガーマネジメント
10月	救急法	ケース検討
11月	虐待防止	救急法
12月	ケース検討	安全運転講習
1月	安全運転、外出支援	ケース検討
2月	コミュニケーション	事業所紹介：制度と支援の理解
3月	まとめ、ヒヤリハット	年度まとめ、反省会

2019年度外部研修まとめ

外部研修実施一覧

月	日	テーマ	外部研修先	参加名
6	28	多職種との連携について	春緑苑	大森
7	3	介護保険制度	春緑苑	森山、大黒、小林
	11	障害の理解、気になるお子さんとのお付き合い	愛知県三の丸庁舎	本田
	25	ケアマネジメント能力	春緑苑	大森
8	1	介護における尊厳の保持、介護の基本	春緑苑	中野、小林
	8	口腔ケア、嚥下に関すること	春緑苑	森山
	22	対人援助能力	春緑苑	大森
9	5	認知症の理解	春緑苑	小林、中野
	12	服薬に関すること	春緑苑	森山
	19	サービス担当者会議を運営する能力	春緑苑	大森
10	3	病気、老化の理解	春緑苑	中野、小林
	10	ターミナルケアについて	春緑苑	森山
	17	高齢者サービスに関すること	春緑苑	大森
11	7	身体、精神障害について	春緑苑	小林、森山、中野、大黒
	14	虐待、権利擁護	春緑苑	大森
12	5	実演による身体介護技術	春緑苑	森山、大黒
	12	地域における高齢者の役割	春緑苑	大森
	19	コミュニケーション技術	春緑苑	小林、中野
1	16	住宅改修、福祉用具に関すること	春緑苑	大森
	23	生活援助技術	春緑苑	中野、小林
2	6	各サービス種別について	春緑苑	大森

2019年度ヒヤリハットまとめ

	発生日	区分	内容	要因	対策
1	6/4	移動支援	利用者さん宅に向かう途中、道を間違えて遅刻してしまった。	出発前の確認不足	確認をしっかりと安全に気をつけ、遅れることのないようにする。
2	6/9	移動支援	駅構内で利用者さんが、ヘルパーの首につかみかかっていたので、自分の身を守るために手を離れたら、ベンチに座っていた女の子のフードをつかんでしまった。	利用者さんの機嫌が悪い状態で出発してしまった。利用者さんの気持ちを切り替えることができなかった。	行き先を確認 本人にわかりやすく伝える。不安のまま出発をしないようにする。
3	8/19	同行援護	バスに乗った後、別方向のバスに乗ってしまったことに気づき、帰りは予定時間に戻れなかった。	バス車両の表示をみずに乗ってしまった。	バスの表示、時間をしっかり確認する。
4	8/22	移動支援	ブランコからずり落ち、お尻後部と手を地面についてしまった。 ブランコが前日の雨で濡れていて、シートをひいた。	シートを座るところにひき、きちんと座ったのを確認しなかった。	シートはすべったりするので使用しない。目を離さない。濡れてたら次回にするなど、安全を優先する。
5	8/31	行動援護	日傘をさし、片手しか使えず、利用者さんが靴のつま先がひっかけかりバランスをくずし転倒。ヘルパーも一緒に転倒。	足運びが思う様にいかなかった。荷物を持ち日傘をさし、転倒した時に自分が踏ん張ることができなかった。	安全のため両手が使えるようにし、無理なく介助をする。
6	10/14	行動援護	利用者さんがお店の方へ行こうとして「行かないよ～」と声掛けしたら、右手首を噛まれた。	テンションが高いこともあり、車道を歩くのをさげ、お店の駐車場に入ってしまった。	お店に入る予定がなければ駐車場にはいかない。突発的な行動があることを忘れずにする。
7	11/20	移動支援	支援中、利用者さんがトイレへ行かれた際にヘルパーもトイレを利用したところ、先に出られた利用者さんを一時見失った。	トイレ利用前から利用者さんがイライラしていて、「待っててね」の声かけが耳に入らなかった。	状況に応じた声掛け、対応を心掛ける。視界から外れることを極力避ける。
8	12/2	居宅介護（共同実践）	ごみの分別途中でライターが出てきて、処理をする時にわからず勝手にトンカチで穴をあけて壊し処理。	ライターの処理方法がわからず、利用者さんから危険ではないかと、指摘の連絡がはいった。危険だとは思わなかった。	危険取り扱い注意は自己判断せず、適切な方法をしっかりと確認する。わからなかったら指示をあおぐ。
9	2/14	移動支援	支援中にトイレを利用し、使用したハンカチを散歩中に紛失。2回目のトイレで使用しようとした際に気付く。	利用者さんのポケットにハンカチをしまう際に、本人に任せ、しっかり入っているか確認をしなかった。	私物はきちんとしまえていることを目視でちゃんと確認する。

2019年度物損事故

	発生日	区分	内容	要因	対策
1	12/22	行動援護	昼食時、お弁当のフタを開けようとした時にフタの金具がとれていたの で付けようとしたら強く力を入れたため、プラスチックが破損してしまった	簡単に取れるとは思わず、力を入れすぎてしまった。	注意をはらい確認する。

2019年度事故まとめ

	発生日	区分	内容	要因	対策
1	4/6	れすば24	狭い道路で転回しようとしてバックしたらガードレールに接触傷がついてしまった	無理なバックをしたため、ガードレールに気づかず接触してしまった	バックの際は前後左右の確認と慎重に運転する
2	3/9	移動支援	利用者さんのお宅の駐車場に入庫しようとしたところ、道路脇へ車を寄せすぎ、側溝へ脱輪した。	バック時の操作ミスと寄せすぎていたため。	余裕を持った運転と、慎重な操作を心掛ける。

2019年度苦情

発生日	3/24	区分	れすば24
内容	<p>お迎え時間になったが、お母さんがみえず、電話にて携帯・自宅・職場へ確認を事業所で行うが、どの電話でも保護者へつながらず、1時間経過した時点でお母さんがみえ、利用者さん本人を引き取り、帰宅される。</p> <p>その後、電話連絡にて、普段とお迎え場所、方法が違う場合は事前連絡が必ず必要なことを事業所から伝える。「1時間その場で待っていた」ことと、「その後の電話連絡」の際の対応、言葉使いにお母さんは納得できない。その為、今後支援をお願いするにあたり、特定のヘルパーを外してほしい。</p>		
要因	<p>場所や方法が変わった際の連絡の不徹底。分かっているだろうという、両者の思い込みが大きい。</p> <p>利用者さんのことを思うあまり、言葉遣いまで配慮が至らなくなり、相手が不快に感じてしまうような対応になってしまった。</p>		
解決策	<p>長期利用からくる「分かっているだろう」という部分を両者共に無くし、利用者さんは変更等の連絡の徹底、事業所は支援依頼の確認の徹底を行うこととする。</p> <p>また、特定のヘルパーを外すことは、支援を安定して提供することができなくなるため、応じることが難しいことをお伝えする。</p>		

※長期に渡り、主に支援にあたってきたヘルパーからも同時に要望があった。要望の内容としては「変更等の連絡の仕方や、早めの連絡のお願いは再三に渡りお話しさせていただいてきたが、それらには応じてもらえず、約束を守ってもらえない中、支援にあたるのはヘルパーとしてとてもつらい。今までは、利用者さん本人の為にと思い、継続してきたが、今回の件を区切りに支援を辞退させていただきたい。

事業所としてヘルパー側の意見も重要視し、現在は支援から外れて頂いています。

また、当該ヘルパー以外に同支援を行えるものがない為、現在は支援を行っておりません。

4-2. れすば～さくら館

「れすば～さくら館」の概要

事業区分	障害児通所支援事業
地域生活支援事業 (春日井市補助事業)	日中一時支援(2019年4月～2020年1月)
指定障害児通所支援事業 (通所系)	放課後等デイサービス(2020年2月～)

2019年4月から児童分野として「日中一時支援事業」をスタートし、利用者やスタッフの募集、他の児童施設との交流を重ね、ノウハウを身につけ、年度内に申請が通り、「放課後等デイサービス」へ移行することができました。また、合同で開催予定であった懇親会は情勢により、延期することになったため年度内では行うことはできなかつたので、機会をみて来年度の開催を検討したい。

(1) 「日中一時支援について

開始当初は、定員5名、利用者3名からのスタートとなりました。放課後等デイサービスと遜色ない支援内容で活動し、アピールすることで利用者の募集に努めましたが、日中一時支援でサービスを開始したことにより、市役所に新たに申請をして支給決定を受けなければならないという手間や放課後等デイサービスと併用となると自己負担額が増えてしまうというデメリットがあり、利用者数増には結びつかなかつた。しかし、9月から4人に増え、少ない分マンツーマンに近い形で一人ひとりと向き合うサービスを提供することができた。

学校のある平日には、創作活動や音楽活動、近場の公園へ行きのびのびと体を動かす等をメインに季節に合わせた活動を行って参りました。枝や落ち葉を材料にした遊びや昆虫採取、ハロウィンやクリスマスのための準備等リクエストを聞きながら買い物や準備を一緒に行いました。また、夏に行ったプール代わりに浴槽に水を張った水遊びや水鉄砲や風船遊びも好評でした。

長期休みで学校がない日などには、平日に比べて長い分それぞれの希望する活動や長期外出で普段行くことができない大きな公園や動物園に車や電車を利用していくことができました。普段公共交通機関を利用する機会が少ない利用者が、少し不安そうにしながらも楽しく体験する様子や「楽しかった！また行きたい」と嬉しそうに話す姿を通じて、とても励みになったことに加え、必要性を改めて感じるすることができた。

また、自分の気持ちを相手に伝える大切さを感じてもらうため、スタッフが気づいて先に動くだけではなく、本人から言えるまで(様子をみたり、アドバイスをしながら)じっと待つことで、少しずつではありましたが、自分からやりたいこと・やってほしいことを人に伝えることのできるようになった。

(2) 「放課後等デイサービス」について

日中一時支援から放課後等デイサービスへの移行の際、日中一時の利用者は契約変更を行い引き続き利用をして頂けることになった。また、チラシ配りや宣伝活動で2月には1人増え、3月中には4月からの利用希望として3名の利用者と契約することができた。

支援内容としては、日中一時支援のときと変わることなく、季節毎の行事を取り入れながら活動を行いました。1年近く利用している利用者はメンバーにも慣れ、それぞれの距離感や積極的なコミュニケーション、役割を意識した行動をとるようになりました。人見知りで、新しい人がくるとすぐに隠れてしまっていた利用者も隠れることなく挨拶をしている姿をみると日々の成長を実感することができた。

日中一時支援の時から、学校を休みがちな利用者が「ここならこれる」とほぼ毎日のように通ってくれていた。親や学校と連携をしながら家以外での居場所づくりや生活リズムを整えるよう配慮してきたことで、少しずつ学校にも行けるようになっていく。家庭や学校だけでは体験のできない環境としての居場所として役割として今後も継続して事業を行っていききたい。

(イ) 体制

○日中一時支援

		期初(2019/4)		2020/1	
		人員	常勤換算後人員	人員	常勤換算後人員
管理者	常勤	1	0.1	1	0.1
従業者	常勤	4	1	4	1
	非常勤	10		10	

○放課後等デイサービス

		2020/2		期末(2020/3)	
		人員	常勤換算後人員	人員	常勤換算後人員
管理者	常勤	1	1	1	1
児童発達支援管理責任者	常勤	1	1	1	1
児童指導員	常勤	1	1	1	1
	非常勤	1		0	
保育士	非常勤	1	0.4	0	0
障害福祉サービス経験者	非常勤	0	0	4	0.5
指導員	非常勤	2	0.5	2	0.5
資格保有者 (重複あり)	保育士	1		0	
	幼稚園教諭 教員免許	2		1	

2019年度分類表(4月～1月：日中一時)

○学年

小学生	1年生	2年生	5年生	計(人)
人数	1	1	1	3

中学生	1年生	計(人)
人数	1	1

○日中一時 利用区分

区分	区分1	区分2	区分3	計(人)
人数	0	0	4	4

※日中一時を利用する際、春日井市が行動項目チェックを行い、区分が決められる。

○療育手帳判定

判定	A	B	C	判定なし	計(人)
人数	2	1	1	0	4

○障害別

障害名	知的障害	発達遅滞	広汎性発達障害	ADHD	LD	自閉症スペクトラム	てんかん
該当者数	3	1	1	1	1	3	1

※ADHD:注意欠陥多動性障害 LD:学習障害

○研修について

今年度は地域生活サポートセンターれすぱを一括りとして合同で研修を行いました。

2019年度分類表(2月～3月：放課後等デイサービス)

学年

小学生	1年生	2年生	5年生	6年生	計(人)
人数	1	1	1	1	4

中学生	1年生	計(人)
人数	1	1

41

○放課後等デイサービス 指標該当者

区分	該当あり	該当なし	計(人)
人数	2	3	5

※指標該当者が、総人数の半分以上の場合、単価が増加しますが今回は該当していません。

○療育手帳判定

判定	A	B	C	判定なし	計(人)
人数	3	1	1	0	5

○障害別

障害名	知的障害	発達遅滞	広汎性発達障害	ADHD	LD	自閉症スペクトラム	てんかん
該当者数	4	1	1	1	1	4	1

※ADHD:注意欠陥多動性障害 LD:学習障害

○研修について

今年度は地域生活サポートセンターれすぱを一括りとして合同で研修を行いました。

備考

日中一時から放課後等デイサービスへ移行にあたり、利用者が1名増えました。

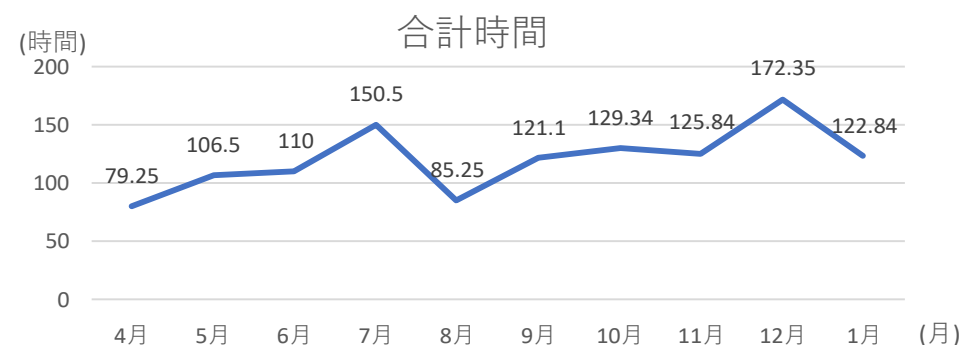
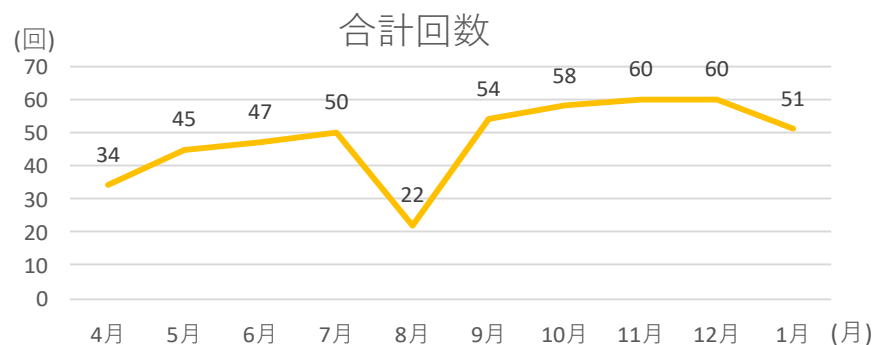
利用時間・利用回数合計(日中一時)

2019年度(日中一時)

利用者 性別 区分	A 男性 区分3			B 女性 区分3			C 女性 区分3			D 男性 区分3			合計回数	合計時間
	日数(回)		時間(h)	日数(回)		時間(h)	日数(回)		時間(h)	日数(回)		時間(h)		
	日数1/4	日数2/4		日数1/4	日数2/4		日数1/4	日数2/4		日数1/4	日数2/4			
4月	14	0	26.5	10	0	27.75	10	0	25	0	0	0	34	79.25
5月	19	0	36	13	0	33	13	0	37.5	0	0	0	45	106.5
6月	19	0	36.5	14	0	34	13	1	39.5	0	0	0	47	110
7月	18	0	45	18	0	57.25	12	2	48.25	0	0	0	50	150.5
8月	6	0	23.5	7	0	28	9	0	33.75	0	0	0	22	85.25
9月	17	1	36.84	18	1	42.17	14	0	37.84	3	0	4.25	54	121.1
10月	19	0	36	20	0	43.25	14	1	44.09	4	0	6	58	129.34
11月	20	0	38	19	0	38.84	15	0	40	6	0	9	60	125.84
12月	19	1	53.34	19	1	56.67	11	3	49.34	5	1	13	60	172.35
1月	18	0	40.25	14	0	34.5	14	0	40.59	5	0	7.5	51	122.84
合計	169	2	371.93	152	2	395.43	125	7	395.86	23	1	39.75	481	1202.97

備考

- ・日中一時支援単価別…1/4：4時間まで 2/4：4時間～6時間まで
(※日中一時では支給日数を4分割することで実際の日数を多く利用することができる。)
- ・学校がそれぞれ異なることや学年によって、下校時間が異なるため時間にそれぞれ違いがあった。
- ・夏休みや冬休みは家族で過ごされたいという希望の方が多く、利用もそれに伴い少なくなっている。
- ・日中一時は2019年4月～2020年1月までの開所。2020年2月からは放課後等デイサービスに移行。

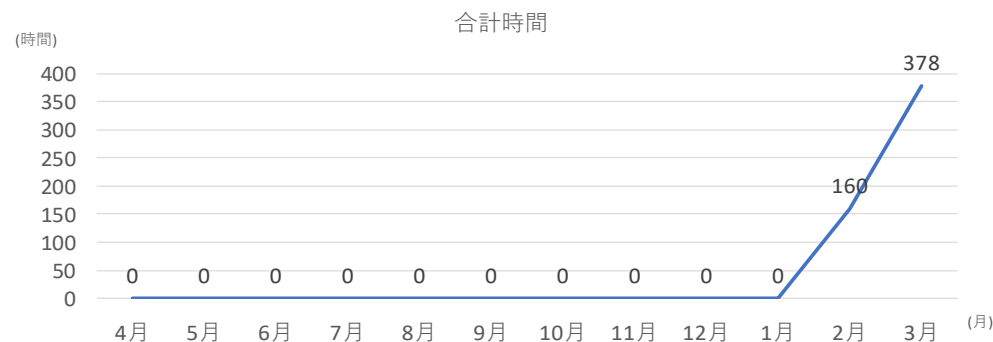
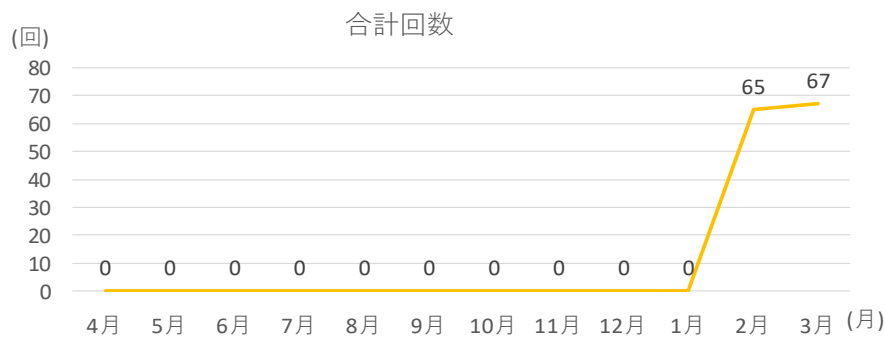


利用時間・利用回数合計(放課後等デイサービス)

2019年度(放課後等デイサービス)

利用者 性別	A				B				C				D				E				合計回数 合計時間 送迎回数		
	男性				女性				女性				男性				男性						
	日数(回)		時間(h)	送迎回数	日数(回)		時間(h)	送迎回数	日数(回)		時間(h)	送迎回数	日数(回)		時間(h)	送迎回数	日数(回)		時間(h)	送迎回数			
月	平日	休日		平日	休日			平日	休日			平日	休日			平日	休日						
4月																					0	0	0
5月																					0	0	0
6月																					0	0	0
7月																					0	0	0
8月																					0	0	0
9月																					0	0	0
10月																					0	0	0
11月																					0	0	0
12月																					0	0	0
1月																					0	0	0
2月	18	0	29.5	17	18	0	67.25	0	13	0	39.25	26	8	0	12	14	8	0	12	15	65	160	72
3月	1	13	82	0	5	13	98	0	3	12	84	30	1	11	66	18	0	8	48	16	67	378	64
合計	19	13	111.5	17	23	13	165.25	0	16	12	123.25	56	9	11	78	32	8	8	60	31	132	538	136

- 備考
- ・平日: 学校がある日→下校後から定めたサービス提供時間まで 休日: 学校が休校の日→サービス提供時間を最低6時間とする。
 - ・学校がそれぞれ異なることや学年によって、下校時間が異なるため時間にそれぞれ違いがあった。
 - ・冬休みは家族で過ごされたいという希望の方があり、利用は平日に比べるとあまり伸びなかった。ただし、一日の提供時間が普段より長いいため時間は増加している。
 - ・日中一時は2019年4月～2020年1月までの開所。2020年2月からは放課後等デイサービスに移行。
 - ・放課後等デイサービスから送迎加算が取れるようになったため送迎回数を追加。(往路・復路合わせた時間で算出)



2019年度 物損事故

	発生日	内容	要因	対策
1	8/29 (木)	外出先から帰る前に施設のトイレを借りるため、施錠されたドアの前を通った時、利用者がトイレに行くのを嫌がって取っ手を引っ張った結果破損させてしまった。(鍵が掛ったまま半開きで動かなく	一旦、施設から出たが、トイレに行っていないことにスタッフが気づいて施設に戻ってトイレに連れて行こうとしたため、利用者にとっては理解しにくかった。	利用者が見通しが持てるように十分な説明や声かけをする。帰る前の流れをスタッフ自身もしっかり落とし込んでおく。
2	3/16 (月)	事業所内の荷物置き場のドアを利用者が何度も強く開け閉めすることで上部の蝶番が取れ、ドアが外れる。スタッフが気づき倒れる前に受け止めたため、幸い怪我人はでなかった。	使用目的以外で、遊びで何度も開け閉めすることが多く、結果蝶番が緩くなってしまった。	ドアがあると気になって、止めてもすぐに開け閉めしてしまうので、ドアは外したまま使用することに変更した。

44

2019年度 事故

	発生日	内容	要因	対策
1	9/6 (金)	支援中、利用者が興奮しているのを止めようとしてスタッフが噛まれた。	噛みつきに対して反応が遅れて避けることができなかった。	突発的な行動に対して常に警戒した対応をする。
2	12/13 (金)	おやつを食べ終わり、手を洗いに行こうと手洗い場のドアを開けた時、中途半端に開いているのが気になり、手すりの隙間に手を入れたまま全部開けようとしたため、左手の中指の先が手すりに残り挟んでしまった。	開いた状態で中に入ろうとしたので、再度全部開けようと思わず、対応が遅れてしまった。	利用者特性や気になるポイントで起こりそうな危険を予測して行動する。ドアの開け閉めの時にはスタッフが近くにいるようにする。

5. こんぱす

① 方針についての振り返り

【相談支援の質の向上に取り組む】

事業所内研修では模擬面接や事例検討会、学習会を計画しました。日程調整ができず、計画の回数を行うことができませんでしたが、法人内のスタッフにも参加してもらう中でそれぞれの視点の枠を広げられる機会になりましたし、学習会にむけて勉強してアウトプットする経験もできました。

外部研修やネットワーク、自立支援協議会の部会にも積極的に参加しました。中でもアルコールや薬物依存、摂食障がい、高次脳機能障がいの当事者の方のお話や人工呼吸器の体験はリアルティをもって理解する機会となりました。

また、相談支援専門員同士や他の機関の方たちとの交流・連携の場に積極的に参加しました。つながりができることで情報交換や相談ができ、支援の軸・方向性がわからなくなってしまったケースでは他機関の協力をいただいて、仕切り直しことができました。こんぱすの事業所内でもケースの共有は大切にしており、アセスメントと支援の方向性の確認はいつも心がけていますが、事業所内で抱え込まないことも支援のために必要なことだと感じました。

質の課題として利用者さんのご希望に添えないことで契約終了となったケースがありました。行政へ支援の必要性を伝えきれなかったことが要因と認識しております。根拠をもって説明する力は不足していると感じています。

最後に研修計画では災害時の対応マニュアルを作るためにこんぱすとしてどう対応していくのか話し合いをしました。これをもとにマニュアル化をします。

【新規利用者の受け入れ体制をつくる】

春日井市は平成30年度より段階的に計画相談を義務付けにする計画です。今年度は8月以降、生活介護やA型、B型の通所のサービスと小学校5年以上の放課後等デイサービスの申請者が対象でした。

こんぱすではだいぶケースが増えてきているので、相談支援専門員を増やす目標で求人をしてきましたがゼロでした。その現状のため、けやき福祉会のサービス利用者さんを主に受け入れ、法人以外の方たちの受け入れ体制は件数の少ない月（6、7、12、1月）にサービス更新の方の場合検討すると方針を決めました。実際には該当月以外の依頼が多く、ご希望に添えない現状がありました。

【収入の確保の取り組み】

サービス担当者会議や提供場面への訪問、他機関との連携などで評価される加算を必要な記録をした上で取得しました。また利用するサービスによってモニタリングが3か月ごととなり、漏れがないようモニタリングを行ってきました。しかし、収入を大幅に確保するほどには至っておりません。

体制加算の取得要件の研修や人員配置をとれず、加算取得の動きはできませんでした。

② 業務実績の報告

【契約利用者】令和2年3月末現在

計画相談支援	障がい児相談支援
76名	5名

- 1) 新規契約者数6名（計画相談支援3名 障がい児相談支援3名）
- 2) 契約終了者数2名（他の相談支援事業所へ1名 死去1名）
- 3) 障がい種別（手帳種別）
療育50名 身体4名 精神4名 療育+身体20名 療育+精神2名 未診断1名
- 4) 在宅・通所サービス利用者71名 施設入所サービス利用者10名

【相談支援の実績】

サービス利用支援	継続サービス利用支援	障がい児支援利用援助	継続障がい児支援利用援助
53件	159件	9件	13件
昨年度比-8	昨年度比+29	昨年度比+2	昨年度比+1

サービス提供モニタリング加算	医療・保育・教育機関等連携加算	入院時情報連携加算	退院・退所加算	サービス担当者会議実施加算	初回加算	行動障害支援体制加算
56件	0件	0件	4件	13件	6件	197件
昨年度比+5	昨年度比-3	昨年度比-4	昨年度比+3	昨年度比+12	昨年度比+5	昨年度比+98

※計画相談と障がい児相談の総数

【研修・会議】（※複数人で参加した研修は1回とする。）

こんぱす内研修・会議	8回（研修4回、会議4回）
外部研修・ネットワーク等参加	33回（外部研修13回 法人内研修3回 ネットワーク会議11回 相談支援連携部会6回）

【事故報告・ヒヤリハット報告・苦情対応報告】

事故報告は公用車の物損が2件ありました。いずれもハンドル操作ミスにより、事業所内とけやきホームの駐車場のコンクリート塀にぶつけました。コンクリート塀の損傷はなく、車両の修理をおこないました。

ヒヤリハット報告は2件ありました。いずれも個人情報保護に関することでした。1件はサービス等利用計画を市役所内でコピーをとり、書類をコピー機に忘れてしまったこと。2件目は基本情報とサービス等利用計画を事業所にファックスする際に伺っていた番号が違っており、他の会社へ送信してしまったことでした。個人情報にかかわる書類は事業所以外ではコピーをしないこととファックスを送信する際は番号が間違いのないか確認を得てから行うよう改善しました。

苦情のお申立てはありませんでした。

以上

①事業所内会議・研修報告

	開催日	内容	参加者
1	4月16日	ほうれんそう会 災害時対応について検討	山縣 宮島 高見
2	5月22日	ほうれんそう会 災害時対応について検討	山縣 宮島 高見
3	6月19日	虐待防止学習会	山縣 宮島 高見
4	7月24日	意思決定支援学習会	山縣 宮島 高見
5	8月27日	事例検討会	山縣 宮島 高見
6	9月18日	ほうれんそう会 災害時対応について検討	山縣 宮島 高見
7	11月27日	ほうれんそう会	山縣 宮島 高見
8	12月11日	模擬面接研修	山縣 宮島 高見 れすばスタッフ3名
9	1月15日	年度末反省会	山縣 宮島 高見

ほうれんそう会ではケースや業務の進め方など確認し合いました。また災害時対応について検討し、マニュアル作成を目標にしました。その他質の向上のため、学習会など研修計画をたてました。法人内のスタッフに参加してもらうことでそれぞれの視点の枠を広げ、学習会にむけて勉強することでアウトプットの経験もできました。

②外部研修・見学 報告

	研修日	研修名	場所	参加者
1	4月13日	事業所紹介研修～けやき福祉会を知ろう～	けやきの家	宮島
2	6月16日	愛知県相談支援専門員協会研修会 意思決定支援	刈谷市産業振興センター	宮島
3	6月1日	グループホーム内覧会見学	グループホーム青い麦	高見
4	6月19日	支援者サロン	しゃきょう	高見
5	6月29日	ネットワーク駒来の家学習会アディクション問題の基礎講座	ささえあいセンター	宮島
6	7月20日	グループホーム内覧会見学	すまいるWAN	高見
7	8月17日	ネットワーク駒来の家学習会摂食障害	ささえあいセンター	高見
8	9月14日	ネットワーク駒来の家学習会アルコール依存症	ささえあいセンター	宮島
9	10月18日	けやきの家大運動会	少年自然の家	宮島
10	11月16日	春日井・小牧小児在宅医療講習会	総合保健医療センター	高見
11	12月7日	ネットワーク駒来の家学習会薬物依存症	ささえあいセンター	高見
12	1月18日	救命救急研修1	けやきの家	宮島 高見
13	1月25日	不登校・ひきこもりと発達障害について	グリーンパレス春日井	高見
14	2月1日	JNHまある研修会フリートーク形式	ささえあいセンター	宮島
15	2月26日	B型事業所内覧会見学	グッドハウス	宮島
16	2月15日	なるほどなっとく高次脳機能障害	あいとピア	宮島

今年度は依存症や高次脳機能障がいをもつ当事者の方のお話を聞く機会を持てました。依存症の方の回復も高次脳機能障がいの方の気持ちの整理には時間が必要なことがわかりました。特に薬物依存の方は更生ではなく、治療・回復ということが分かり、見方が変わりました。見方が変わる・変えられるということは人を相手に支援しているプロとしては幅を広げるチャンスとなります。今後も見方・見え方をバージョンアップしていきたいと思えます。

③つながろう！かすがいネットワーク会議 報告

開催日	内容	場所	参加者
4月4日	世話役会(年間計画)	心の泉	高見
4月26日	第31回 人工呼吸器の研修・体験	総合福祉センター	宮島 高見
5月7日	世話役会(振り返りと次回の打ち合わせ 年間計画)	心の泉	高見
5月31日	第32回 座談会(医ケアの協議の場について)	総合福祉センター	宮島 高見
6月6日	世話役会(振り返りと次回打ち合わせ)	心の泉	高見
6月28日	第33回 後見人について	総合福祉センター	宮島 高見
7月11日	世話役会(振り返りと次回の打ち合わせ)	心の泉	高見
7月26日	第34回 医療的ケアコーディネータ研修報告 相談支援専門員のケース紹介	総合福祉センター	宮島 高見
8月8日	世話役会(振り返りと次回の打ち合わせ 後期の計画)	心の泉	高見
8月23日	第35回 訪問看護について	総合福祉センター	宮島 高見
9月3日	世話役会(振り返りと次回の打ち合わせ 後期の計画)	心の泉	高見
9月27日	第36回 医療的ケア児のお子さんの昔から今	総合福祉センター	宮島 高見
10月4日	世話役会(振り返りと次回の打ち合わせ 後期の計画)	心の泉	高見
10月25日	第37回 座談会(医療的ケア児連絡会仮について意見交換)	総合福祉センター	宮島 高見
11月6日	世話役会(振り返りと次回・学校見学打ち合わせ)	心の泉	高見
11月19日	小牧特別支援学校見学	小牧特別支援学校	宮島
11月29日	第38回 ACPについて	総合福祉センター	宮島
12月3日	世話役会(振り返りと次回打ち合わせ)	心の泉	高見
1月7日	世話役会(振り返りと次回と次々回の打ち合わせ)	心の泉	高見
1月24日	第39回 ナーシングホームについて	総合福祉センター	宮島 高見
2月4日	世話役会(振り返りと次回打ち合わせ 来年度の計画)	心の泉	高見
2月21日	第40回 意思決定支援	総合福祉センター	宮島 高見

医療的ケア児者の方たちを支え、地域課題を解決していくため作られたネットワークも3年を過ぎました。今年度は市町村単位で「医療的ケア児の支援を考える場をつくるように」と国から通達があり、医療的ケア児等コーディネータと役割ができました。医療的ケアが必要な方の暮らし・支援がクローズアップされた年になりました。ネットワークとして「協議の場に何を求めたいか」意見を出しあいました。協議の場は「連絡会」というものから出発するようで、これから課題の整理がされていくようです。ネットワークのメンバーの中に連絡会のメンバーとなった方たちがみえますので、これまでネットワークで出された課題がテーブルにあげられることを期待します。

また、研修の機会がたくさんありました。人工呼吸器の体験ができた、人生会議をしようとCMでも話題になった「ACP」について学ぶことができました。医療的ケアの方たちとかかわるようになって、まだまだ知らないことはたくさんあり、学ぶことは尽きないと感じました。

④春日井市地域自立支援協議会 相談支援連携部会全体会の報告

開催日	内容	場所	参加者
1 4月19日	自己紹介 全体共有 グループワーク(困りごとなど)	市役所	宮島 高見
2 6月21日	障がい児通所支援等事業所交流会	市役所	宮島 高見
3 8月16日	障害児相談演習	市役所	宮島
4 10月18日	障害児支援、こどものライフステージ	市役所	高見
5 12月20日	精神障害について	市役所	高見
6 2月21日	精神科病院との連携	市役所	高見

障がい者生活支援センターの相談員と指定特定相談支援事業所の相談支援専門員が集まり、研修で知識の向上や他機関との連携を図り、相談員同士でグループワークを行い情報交換を行っています。

研修の内容は計画作成が難しい児童の支援にスポットが当てられ、学ぶ機会や交流の機会を持てたことはよかったです。また、当事者の方のお話も貴重な体験でした。

新しい指定特定相談支援事業所が少し増え、この部会の人数がかなり増えた印象です。部会の時間では交流できる人に限りがあって、まだ挨拶もできていない方もみえます。部会になんとなく活気がなくなったな、という印象がありました。よいアイデアがあったら部会長に提案したいと思います。

作成者：高見枝美子

SKP委員会(サービス向上プロジェクト)2019年度事業報告

	日	時間	内 容	発行物
1	4/20	10:30 11:30	・第2回「各事業所を知る」研修会 …けやきの家	SKP新聞 4月号
2	4/23	17:30 18:30	・第3回「各事業所を知る」研修会 …ホーム	
3	5/9	10:30 12:30	・「各事業所を知る」研修会反省会 ・2019年度の活動について	かわらばん 28号
4	6/13	10:30 12:30	・2019年度の活動内容の具体化	
5	7/8	10:30 12:30	・SKPメンバー一部交代 ・スタッフの意識調査の方法について	かわらばん 29号
6	8/21	10:30 12:00	・SKP活動目的の再確認 ・職員アンケート作成について	SKP新聞 8月号
7	9/12	10:30 12:00	・アンケート回答精査	SKP新聞 9月号 かわらばん 30号
8	10/9	10:30 12:00	・忘年会の決定、案内「ザックイ高蔵寺」 ・職員アンケート発表について	SKP新聞 10月号
9	11/13	10:30 12:00	・忘年会の準備、出席者確認	かわらばん 31号
10	11/23	18:30～	忘年会開催	
11	12/9	10:30 12:00	・職員アンケート発表に向けての準備 ・忘年会の反省	かわらばん 32号
12	1/15	10:30 12:00	・「事業所紹介研修」の準備 ・新年、新人歓迎会について、案内	SKP新聞 1月号
13	2/8	18:30	新年・新人歓迎会開催	
14	2/12	10:30 12:00	・新年・新人歓迎会の反省会 ・「事業所紹介研修」準備	SKP新聞 2月号
15	2/17	10:30 12:00	「事業所紹介研修」開催…れすば	
16	3/11	10:30 12:00	・研修会の反省 ・次回研修の開催について審議	

2019年について

新型コロナウイルスの影響により、3月に予定していた「事業所紹介研修」は2020年度に延期し開催予定。日程については新型コロナが落ち着いてから検討。

研修会を通じ、各事業所のことを相互理解し、けやき福祉会全体が一つになれるよう、研修活動を継続していく。

歓迎会や忘年会など、コミュニケーションがとりやすい場の提案を引き続き行っていく。

(SKP 大森)